

地区		施設名	一般料金		海外参加者料金	
中 部	うるま市	ビオスの丘	大人(中学生以上) 小人(4歳~小学生)	710円 360円	大人(中学生以上) 小人(4歳~小学生)	710円→300円 360円→100円 ※お連れのお客様は通常料金 ※他体験は通常料金
		海の駅 あやはし館	入場料なし		入場料なし	
	読谷村	体験王国むら咲むら	大人(大学生以上) 中高生 小学生 幼児	600円 500円 400円 無料	大人(大学生以上) 中高生 小学生 幼児	540円 450円 360円 無料
		Gala 青い海	入場は無料。工芸体験は有料		入場は無料。工芸体験は有料	入場は無料。工芸体験は有料 立ち寄り特典として ①沖縄の海水塩美ら海育ち20gプレゼント(引き換え場所:総合案内) ②塩づくり体験 10%OFF
		東南植物楽園	大人 高校生 小中学生 6歳未満	1,500円 1,000円 500円 無料	大人 高校生 子供(小中学生) 6歳未満	1,350円 900円 450円 無料
	沖縄市	沖縄こどもの国	大人 中高生 4歳~小学生 3歳以下	500円 200円 100円 無料	大人 中高生 4歳~小学生 3歳以下	400円 150円 80円 無料
		中城城跡公園	大人 中高生 小学生以下 未就学児	400円 300円 200円 無料	大人 中高生 小学生 未就学児	300円 200円 100円 無料
	北中城村	中村家住宅	大人 中高生 小学生	500円 300円 200円	大人 中高生 小学生	450円 270円 180円
		宜野湾市	天然温泉アロマ	大人 小中学生 小学生未満	1,500円 750円 無料	大人 小人(小・中学生) 小学生未満
那 部	首里城公園	大人 中人 小人 6歳未満	660円 ※高校生 490円 ※小中学生 250円 無料	大人 中人 小人 6歳未満	300円 ※高校生 240円 ※小中学生 120円 無料	
		玉陵	大人 小人 保護者同伴で未就学児	300円 150円 無料	大人 小人 保護者同伴で未就学児	無料 無料 無料
	識名園	大人 小人(中学以下) 保護者同伴で未就学児	400円 200円 無料	大人 小人 保護者同伴で未就学児	無料 無料 無料	
		那 那 覇	博物館常設展 一般 高・大生 小中生 美術館コレクション展 一般 高・大生 県外小中生	410円 260円 150円 310円 210円 100円	海外参加者は入場料無料	
34	てんぶす那覇(芸能公演)	10/27・11/3 木曜芸能公演・入場料 大人(18歳以上) ※各公演20席限定。要予約。	1,500円	10/27・11/3 木曜芸能公演・入場料割引 大人(18歳以上) ※各公演20席限定。要予約。 (予約時「ウチナンチュ大会参加者割引希望」と必ずお伝えください。)	1,000円	

地区		施設名	一般料金		海外参加者料金			
那 部	那 那 覇	那覇市伝統工芸館	大人 高校生 小人・中学生	310円 200円 100円	大人 高校生 小人・中学生	280円 180円 90円 ※販売店5%割引(割引券は事務所に配布) ※一部対象外商品有り		
		那覇市立壺屋焼物博物館	大人 大学生以下	350円 無料	大人 大学生以下	無料 無料		
		那覇市歴史博物館	一般 大学生以下	350円 無料	大人 大学生以下	無料 無料		
		Parker's Mood Jazz Club			ご来店いただいたお客様へ グラスワイン1杯サービス			
		手作り体験工房 ていあんだー			手づくり体験料金 10%OFF アクセサリ、お土産、雑貨販売 10%OFF			
		福州園	大人 小人	200円 100円	大人 小人	100円 50円		
		ウエストマリン	大型水中観賞船オルカ号 大人(13歳以上) 小人(6歳~12歳) 運行時間⇒9:00、10:15、11:45、 14:00、15:30	3,000円 1,500円	大型水中観賞船オルカ号 大人(13歳以上) 小人(6歳~12歳) 運行時間⇒9:00、10:15、11:45、 14:00、15:30	2,500円 1,000円		
		42	沖縄アート体験 美ら風	ちゅらキャンドル作り体験基本料 ちゅらガラス絵付け体験 しっくいシーサー絵付け体験 デコオルゴール作り体験基本料 琉球ガラスエッチング体験基本料	1,050円 1,400円 1,550円 2,050円 2,550円	ちゅらキャンドル作り体験基本料 ちゅらガラス絵付け体験 しっくいシーサー絵付け体験 デコオルゴール作り体験基本料 琉球ガラスエッチング体験基本料	945円 1,260円 1,395円 1,845円 2,290円	
				着物体験 桜 SAKURA	体験料 ※着物(ゆかた)レンタル料金 小物一式・着付	4,980円	体験料 ※着物(ゆかた)レンタル料金 小物一式・着付	3,000円
				44	沖縄DFS株式会社		Tギャリア沖縄で買い上げの方に ギフト進呈 ※お1人様おひとつ限定 ※対象外販売有り 受取:購入レシートをレセプション で提示	
		45	トラベッレクス 那覇国際通り店			3万円以上の両替、もしくはご送金 にてオリジナルグッズプレゼント		
		南 部	豊見城市	琉球温泉瀬長島	※入湯税・消費税込 大人(中学生以上) 平日 土日祝 小人12歳未満(小学生) 幼児 無料	1,330円 1,540円 720円 無料	※入湯税・消費税込 大人(中学生以上) 平日 土日祝 小人12歳未満(小学生) 幼児 無料	1,030円 1,240円 720円 無料
				【料金セット内容】 バスタオル・フェイスタオル 注意事項 ①刺青・タトゥーは入浴不可 ②日常生活でオムツ利用者は入浴不可 ③浴場内飲食不可 ④更衣室・浴場内での携帯電話・カメラは不可		【料金セット内容】 バスタオル・フェイスタオル 注意事項 ①刺青・タトゥーは入浴不可 ②日常生活でオムツ利用者は入浴不可 ③浴場内飲食不可 ④更衣室・浴場内での携帯電話・カメラは不可		

地区	施設名	一般料金	海外参加者料金	
南 部	47	旧海軍司令部壕	大人 440円 小人 220円	大人 390円 小人 190円
	48	くーすの杜 忠孝酒	工場見学・試飲 予約制・当日可	無料 施設見学者 ※(大人のみ)に泡盛ミニボトルプレゼント
	49	豊見城市 沖縄アウトレットモール あしびなー		①インフォメーションセンター受取 あしびなー割引クーポン券 沖縄風景ポストカード 油取り紙 ②琉球レザーLLA 沖縄伝統商品¥5000以上購入の お客様に、刻印サービス 及び琉球レザーオリジナルキーホ ルダープレゼント ③お土産ショップ南々風(ななかぜ) ¥5000以上購入の方に沖縄雑貨 プレゼント ④特産品ショップ 美童 商品¥3240以上購入にて豊見城 市特産ウーヅ染めコースタープレ ゼント
	50	まさひろ酒造株式会社	工場見学・試飲	無料 ※10%OFF+泡盛ミニボトルプレ ゼント
	51	株式会社ひめゆり会館	入場は無料。工芸体験は有料 沖縄伝統工芸体験 琉球紅型色差し 864円 漆喰シーサー色差し 大:2,160円、小:1,620円 その他あり。お買い物割引 →10%割引(免税取扱店)	入場は無料。工芸体験は有料 沖縄伝統工芸体験 琉球紅型色差し 700円 漆喰シーサー色差し 大:1,900円、小:1,300円 その他あり。お買い物割引 →10%割引(免税取扱店)
	52	琉球ガラス村	入場は無料。工芸体験は有料	入場は無料。工芸体験は有料 琉球ガラス15%、民芸品10%引き ※特定品、セール品除く
	53	沖縄県平和祈念資料館	大人(学生を除く成年者) 300円 小人(学齢に達しない者を除く未成年 または学生) 150円 学齢に達しない者は 無料	大人 無料 小人 無料 ※ただし、大会パスの提示が条件
	54	糸満市 沖縄平和祈念堂	大人 450円 中高生 350円 小学生 無料	大人 350円 中高生 250円 小学生 無料
	55	おきなわワールド	大人(15歳以上、小人は4歳~中学生) フリーパス券 (玉泉洞・王国村・ハブ博物館) 大人 1,650円 小人 830円 玉泉洞&王国村券 大人 1,240円 小人 620円	大人(15歳以上、小人は4歳~中学生) フリーパス券 (玉泉洞・王国村・ハブ博物館) 大人 1,200円 小人 600円 玉泉洞&王国村券 大人 900円 小人 450円
	56	知念海洋レジャーセンター	グラスボート遊覧 大人 1,400円 小学生 700円 コマカ無人島送迎 大人 2,500円 小学生 1,400円	グラスボート遊覧 大人 1,000円 コマカ無人島送迎 大人 2,000円 ※小人は割引の半額

地区	施設名	一般料金	海外参加者料金	
石 垣	57	八重山鍾乳洞 動植物園	大人 1,500円 小人 800円	大人 800円 小人 500円
	58	石垣島鍾乳洞	大人 1,080円 小人 540円	大人 540円 小人 270円
	59	石垣市 石垣やいま村	大人(13歳以上) 1,000円 子供(3歳~12歳) 500円	大人(13歳以上) 700円 小人(3歳~12歳) 350円
	60	伊原間鍾乳洞・サビチ洞	大人 1,250円 小人 600円	大人 900円 小人 400円
	61	パラビドー観光農園	大人(中学生以上) 200円 子人(中学生未満) 無料	大人(中学生以上) 無料 子人(中学生未満) 無料
宮 古	62	宮古島海中公園	大人 1,000円 高校生 800円 小中学生 500円	大人 700円 高校生 550円 小中学生 350円
	63	宮古島市 宮古島市体験工芸村		体験料10%引き(全工房) 前日までの要予約 ※大会参加者パス提示
	64	宮古島市熱帯植物園	入場料なし	入場料なし
久 米 島	65	久米島町 バーデハウス久米島	バーデプールゾーン 大人 ¥2,160 小人 ¥1,080 タオルはお持ち頂るかレンタルをご 利用ください。 ※タオルセット(バスタオル・フェ イスタオル¥300)	大会参加証提示で25%引き

5 出演者団体協力体制

世界のウチナーンチュ大会を全県的事業として位置づけ、大会に出演する個人、団体を含めた関係者から出演料低減等、幅広い支援を頂いた。

6 ボランティア協力

大会実施をサポートしていただくため、今大会でもボランティアを募集したほか、多くの県庁職員を動員し、大会に協力していただいた。

(1) ボランティアの募集

- 募集期間：平成28年7月11日(月)～平成28年9月23日(金)
- 募集人数：約500名
- 募集広報：大会ホームページ上で応募を呼びかけたほか、新聞および県の広報媒体で募集を行った。

(2) ボランティアの参加・活動状況

- 募集に対し435名のボランティアの応募があり、大会期間中は約400名が県庁動員職員とともに、パレードや開会式・閉会式など大会の各種イベントの運営をサポートした。
- 説明会：10月11日(火) 午前・午後2回
10月12日(水) 午前・午後2回
(場所：県庁4階講堂)

(3) ボランティアへの対応

大会期間中におけるイベント補助のボランティアに関しては、交通費(一律500円)を支給し、業務時間帯に応じて弁当を支給した。

(4) 総括

ボランティアに応募した方のうち、語学対応可能な方が約200名程おり、大会では各イベントでの受付や案内、県人会長会議等で通訳業務に携わった。語学対応可能なボランティアの大半が英語であり、ポルトガル語対応可能なボランティアの不足が生じたため、追加募集を行った。

海外からの参加者が当初の見込みを大きく上

回ったこともあり、大会会場での参加者の案内や誘導、それぞれの場面での通訳など、ボランティアが大きな力を発揮した。

7 物品の貸与、手数料の免除

以下のとおり、物品の貸与や手数料の免除のご協力を頂いた。

- ① 豊見城市社会福祉協議会から大会期間中に車椅子5台を無償貸与頂き、会場で高齢者など参加者に利用された。
- ② 沖縄セルラー電話(株)から大会期間中にスマートフォン50台を無償貸与頂き、大会運営スタッフが利用した。
- ③ (株)日産レンタリース沖縄から大会期間中にレンタカー2台を無償貸与頂き、大会運営スタッフが利用した。
- ④ 琉球銀行から、事務局設置の平成27年6月から解散の平成29年3月まで、約300件、約20万円相当の口座振込手数料の免除を頂いた。
- ⑤ 沖縄銀行、琉球銀行、沖縄海邦銀行、コザ信用金庫から協賛金の受入について、口座振込手数料の免除のご協力を頂いた。

1 大会参加者の声

Wesley Ueunten ウェスリー 上運天
(アメリカ・サンフランシスコ沖縄県人会 会長)

I thought the Festival was fabulous! It is incredible that so many people from so many different places could be taken care of that well. It was a great celebration of Okinawan identity and culture.

My only suggestion might not be practical or implementable, but here it is anyway.

I think that a permanent office or center (even if small) be established to direct an integrated "Sekai Shimanchu" program. This program would be devoted to continuing the energy and momentum of the Taikai after it is finished. For example, many good ideas are brought up and discussed at the Taikai and it would be good to have an office or center that could coordinate communication and cooperation across the Okinawan "diaspora" in doing concrete things to implement these ideas. Also, a "Sekai Shimanchu" program would be led by a permanent staff that already has expertise in organizing the Taikai. That is, instead of starting anew every 5 years, the program would be led by people who have experience from the previous Taikai.

In other words, to the risk of sounding crazy, I am suggesting that more emphasis be placed on the 地味な work of building up the Okinawan diaspora through creating and maintaining real communication, exchange and dialog across it. The Taikai is wonderful and amazing and it makes all of us proud to be Uchinanchu, but it happens only every 5 years. I think that the work in the intervening years is more important. There are many things – smaller things – that I think we in the Okinawan diaspora and the Okinawa prefectural government can work together on for our mutual benefit. For example, as a scholar, I know that there are other Okinawans around the world who could exchange fruitful ideas and knowledge that can bring positive recognition to Okinawa. It would be good to have a central office or center that could facilitate exchange between scholars. Further, as a president of a kenjinkai

whose members are mainly over 70 and speak only Japanese and Okinawan, I would like to promote programs that would involve younger people. One idea would be to coordinate efforts of home stays by young Okinawans from Okinawa, Brazil, Argentina, etc. in San Francisco and homes stays by young Okinawans here in San Francisco in those places. It is the actual human connection that will strengthen the Okinawan diaspora. My one small critique is that the Taikai is a great celebration that brings people together for a few days in the same space and time, but after we come home, we are again separated in our own space and time. It takes mutual everyday effort to break the barriers of space and time.

Lastly, I propose a "Sekai Shimanchu" program as opposed to "Sekai Uchinanchu" program for two main reasons. One is that "Uchinanchu" to some extent excludes people from Amami, Miyako, Yaeyama, Daito Jima, Yonaguni, etc. and turns attention away from the diversity that exists in Ryukyu. The other is that "Shimanchu" would enable us to confirm commonalities with people from other island and Oceanic regions such as Hawai'i, Guam, Samoa, Tonga, Palau, Scotland, Ireland, Puerto Rico, Cuba, etc. I think that "island" from the point of view of "continental" or "mainland" people is that they are isolated, but "island" from the point of view of "Shimanchu" is that by necessity to survive and thrive we are all connected across space and time. I would have to argue that people from continents, mainlands, and countries with large economies and political power such as the U.S. and Japan are often only able to see the world from big to small, and top down. "Shimanchu" are able to see the world as one of relationships that go from small to big and bottom up. It is this vision that I think is most important for the world.

In any case, thank you for your work and patience.

Susan Fujiko Turner スーザン・フジコ・ターナー
(アメリカ・オレゴンウチナーンチュウ会 会長)

The five day festival went by so quickly with all the meetings and lavish parties. The Opening and Closing Ceremony were very entertaining and

offered something for every age group. We particularly loved the 1,000 sanshin player performances and the band "Begin" and singer Rimi Natsukawa and of course the wonderful exciting Eisa performances by so many taiko players. We only wished we had brought all of our children and grandchildren with us so they could see what a great culture we've inherited. Thank you for bringing highlight to accomplished Okinawans from around the world that we may honor their great talents and cherish their contribution to the world.

For all of us who are older and honor our cultural traditions we missed not having an opening dance performance to Kagiya defu (Kajadefu) which they did play during the sanshin performance. We all hope to return home more often and bring prosperity to our friends and family who still live there.

Thank you for providing excellent public transportation services during the festival. Everyone was so kind and welcoming to our return to Okinawa. We were even invited to stranger's homes for dinner and received gifts from people working in the hotels we stayed.

Our group rented a car and we drove all around Okinawa so we could see the island all the way to Cape Hedo and the surrounding areas. We wore our Uchinanchu Taikai Pass and went to Kori-Jima and the facility in Ogimi's Bashofu factory. Everyone received us warmly and welcomed us back to Okinawa including the wonderful people working at the Ogimi Village's Office where they gave us posters for the internationally recognized Taira Toshiko-san, whose work and teachings bring us much pride.

The festival was much more greater than we could have imagined and all of you did such a wonderful job putting together the event. We thank you from the bottom of our hearts, wishing all of you on this beautiful island the very best of future endeavors and we ask that you continue to protect the welfare of our people.

トロリオ 牧 (アメリカ・ユタ州沖縄県人会 副会長)
今回が会長マンデールと私にとって、初めての世界のウチナーンチュウ大会参加でした。

大会参加準備でとても大切な役割でもある、県や各市町村と県人会会員の間での細かい橋渡しの業務を、素早く正確に進めてくれた会長マンデールのお陰で、ユタ州からの参加者は、沖縄で素晴らしい経験をする事が出来ました。

オープニングセレモニーではユタ州からも2名、サンシン大演奏に参加する事が出来ました。

大会の連携イベントでは、ユタ州沖縄県人会舞踊会のメンバーが、沖縄セルラーパークのはいさいステージと国立劇場おきなわで行われた我々が住むは五大州Ⅱで、琉舞を披露するという貴重な経験をさせて頂きました。日頃の練習の成果を、故郷沖縄の大舞台で披露させて頂いた経験は、会員の今後の県人会活動へ対する意欲や姿勢へも、益々良い影響を与えていると思っています。

又レッツスタディ・ウチナーンチュウ事業にも会員数名が参加させて頂き、ユタ州での県人会活動などを沖縄の子供達へ伝える素晴らしい機会を頂きました。

沖縄タイムス様や琉球新報様にも、ユタ州からの参加者の事を記事にして下さり、会員にとって素晴らしい思い出が出来ました。

沖縄県全体で歓迎して下さった本大会が、私達海外ウチナーンチュウへ与えた影響は物凄く大きく、今後の海外ウチナーンチュウとしての日々の生活の励みにもなっていると思っています。

半年も前から大会に向けて夜遅くまで準備をして下さった実行委員会の皆様、そしてボランティアの皆様、本当にどうもありがとうございました。ユタ州沖縄県人会一同、心より感謝致します。

ヘインズ 末子

(アメリカ・ヒューストン沖縄県人会 会長)

今回初めてウチナーンチュウ大会に参加し大変感激しました。国際通りを埋め尽くす程の大勢の人々、大人、子供、そして車椅子のオーバーまでが帰省した私達を「おかえりなさい」と心暖まる出迎えに目頭が熱くなりました。ウチナーンチュウに生まれて本当に良かった。多彩なイベントが企画され全てを見る事は不可能でしたが充実した素晴らしい5日間を体験する事が出来ました。ウチナーンチュウである誇りと体の奥から込み上げてくる熱いウチナーンチュウを感じる事ができました。帰米後にパンフレット、新聞の切り抜き、写真などをヒューストン県人会の皆さんに公開し大会の素晴らしさを伝えたいと思います。今回の大会にはより多くの会員の方達が参加出来る事を望みウチナーンチュウの日にちなんで沖縄の伝統文

化に触れる機会を設け会員の絆をより深いものにしたと思っています。

ウチナンチュ大会事務局の皆さんそしてイベントを成功に導いた全ての方々に心より感謝申し上げます。本当にご苦労様でした。

Bill Bachsbaum ビル・バクスバウム (アメリカ・サンアントニオゆうなの会)

I would just like to suggest that whenever you publish the worldwide Kenjinkai listing you include contact data (web site, Facebook page, email address, etc.) for each group. This will foster contact/interaction between the groups.

Keith Aidich キース・エイディッシュ (アメリカ・インディアナ沖縄県人会)

I was at the gathering and really enjoyed it. As far as improving it I would do more advertising. We stayed a block away from the prefecture office and really did not get the festive feeling. You need to hang more banners around the downtown area and throughout the island to get everyone excited about the festival. The other people feel the same it was as if you were just on vacation. We arrived a week early and that is how we felt. You waited till the day before it started to put the mascot out on Kokusai Street just get the flags out and get people in to the spirit. Perhaps also in front of the prefecture building or even across the street by Ryubo make a flag area a put a flag for each country that is represented at the festival put it up a week before so everyone can see the countries where the Okinawa culture is being spread. With that said the opening and closing ceremonies were very nice I think everyone enjoyed. Also with the size of the festival you all deserve and thank you for doing a very good job setting it up. Again thank you all and see you in 5 years.

久美子 ラングリー (アメリカ・セントルイス沖縄県人会 会長)

帰国して早、一月になろうとしています、未だにあの感動的な5日間に浸っています。皆様の世界のウチナンチュ大会の御準備、御接待、大変な御時間を費やしての御苦労、又、皆様の暖かいお気持ちに、只、只、感謝の一言に尽きません。

今年は、パレードも前回は越える盛り上がりだっ

たように思います。壺屋小学校の運動場がそれはもう、参加者のうねりでもさに、足の踏み場も無いほどでしたが、皆様の手際の良い、受付、各地域事の整理のお陰で、私達参加者も迷う事無く国際通りへと繰り出せました。

沿道の皆様の厚い声援に胸が震えるほどの感動を覚えたものです。参加者も又、沖縄の文化をベースにしながらも、御参加地の特色を盛り込んだ踊り等にはパレード参加者と沿道の人を結びつけ大いに盛り上がったと思います。

時間の都合で全ての催しには参加できませんでしたが、私個人といたしましては「世界のな一ふあんちゅ大会」に参加させていただきましたが、そちらも大盛況でイスが足りずに立食なさる方達もいらっしゃいました。御馳走も大変に美味しく、空手の演武、エイサー等の鑑賞と楽しいひと時でした。古い知人に25年振りに再会できたりのおまけまで付いて感無量でした。

開会式、閉会式は共に素晴らしい構成で、沖縄を代表するアーティスト達の素晴らしい演奏に、日本語の解らない孫達もピギンの歌と一緒に口ずさんだりしていました。あの演奏、舞台にはきっと多くの方達が「うちなーんちゅ」で良かった、宝だ！と再認識された方ばかりだと思います。

余談ですが、パレードの到着場所に前川守賢さんがいらして、ショーの御準備をなされていましたが、「写真」を御願ひした所気持ちよく、わざわざ御着物に着替えられて家族写真に入ってくださいました。孫達にも耳慣れた前川さんの歌と御本人との出会いでしたが、うちなーんちゅの「お帰りなさい。」のお気持ちが暖かく伝わった一コマでした。

本当にひと時、ひと時が楽しくて、感動の世界のうちなーんちゅ大会でした。セントルイスの皆を代表して心から感謝申し上げます。

吉田 紀子 (アメリカ・ニューメキシコ州県人会長) ニューメキシコ州県人会会長の吉田です。兼次さんはじめ大会関係者の皆様本当にご苦労様でした。今日は簡単な報告をしたいと思います。

私はレッツスタディワールドウチナンチュで宜野湾中学校の生徒さんとの交流で楽しい一日が過ぎました。初めてのことで不安でしたが80人の生徒さんが積極的に質問などをしてくれて助かりました。そして担当の武野先生にも助けられ良いプレゼンテーションができました。生徒さんたちとの写真は父兄に承諾が必要だとのことで撮れませんでした。

そして、世界のウチナンチュナースデーにも参加

し貴重な講習会でした。

後はてんぷすでの演目や国立劇場での琉球舞踊と忙しい5日間でした。

Lorraine Mitsu Teramura ロレイン・ミツ・寺村 (アメリカ・ニューヨーク沖縄県人会 会長)

As far as I could tell, the festival was a great success. The parade and governor's welcome party were a nice way to start the festival. The opening ceremony was beautiful. One of the highlights of the trip for me was visiting a technical high school in Naha. The students seemed very excited to meet and exchange cultural ideas with us. They even asked us to come back next year!

On Friday, we visited Nago and met the mayor. Then on Saturday, our kenjinkai's yeisa group successfully performed at the National Theatre to a sold-out crowd. On the last day of the festival, we spent the whole day at the cellular stadium until the closing ceremony. Five days went by very fast but I personally enjoyed every minute!

I love Okinawa!

トウシー てい子 与那覇 (アメリカ・ニューヨーク沖縄県人会 顧問、ウチナー民間大使)

大会、見事に終わらせ下さりご苦労様でした。ニューヨーク県人会の1世として大会感想を送ります。

- (1) Parade ... Great!
- (2) 「ゆんたくさびら〜会議」の今回の様式は良かった、と思っています。小さい円卓であっちこっちの県人会から Random に集合した代表達の小人数が話し合え、意見がまとまりやすかった、と感じました。Kennedy 大使も Surprise で来て下さり、更に彼女の Speech の初めと終わりはウチナーグチで挨拶したのは驚き印象的でした。
- (3) 開会式について
新幸人、夏川りみは an excellent choice! Their selected songs were appropriate, too.
琉球バレエ(?)は好きじゃなかったです。違和感を抱きました。何で? ウチナームンはどうなったの? と思いました。もし孫達が一緒だと 琉球芸能の伝統を説明できない、と感じました。
- (4) 閉会式について
「ガレッジセール」の飛び入りユンタク、あんな特大の会場を相手に良くやったと感心しました。親近感の雰囲気をつくるタレント達だとも感心し

ました。背景の Begin 達の Stage set-up をうまい具合の Timing で、Stage Direction にあっばれです。

BEGIN はよかったです!! 「島人の宝」は何回も続けて聞けます。飽きない歌・曲の Group song で大会の参加に意義ありの追加 Icing でした。

J-MELO が出たとたんニープイしていたから、何見たか思い出せない。周りに聞いたら「何も Miss してないよ。」と言われました。その後の20分程の Show は 金の無駄遣いじゃないでしょうか?

後で閉会式とグランドフィナーレの間、つなぎの部分に NHK のステージを挿入した、と後ほど知らされました。費用も NHK さん持ちですが、おかげで大会の様子が番組を通して世界中に発信された、との事! それは有り難き幸せですね。

クワディーサー (四つ竹) の群舞、170人(?)の空手演武が対照的で Vividly impressive and they are still in my mind. They made me very proud to be one of the Uchinanchus who attended the festival 2016.

アサト 逸子 (アメリカ・ワシントンDC沖縄県人会 会長) 参加者登録について:

参加者リスト作成には、参加者の誕生日やパスポートナンバーを記載する必要はないと思います。プライベート情報ですので。同姓同名の方の判別が必要な時に、誕生日が役立つ、という説明をいただきましたが、遠縁の親戚の方の誕生日など覚えている方はあまりいらっしゃらない、と思います。親戚/遠縁の方がウチナンチュ大会に参加することになっているかどうか、を大会事務局に問い合わせるケースがあっても、親切に対応して調べてあげるとはいいことですが、そのようなケースはとて少ないと思いますので、そのために6,000余の参加者に誕生日やパスポートナンバーまで記入させる必要はないと考えます。参加者の那覇空港発着の期日と便名の記入も個人情報になるので、記載しない、という方々もいらっしゃいました。イベントについて:

前夜祭の国際通りパレードは、各県人会の意気込みが感じられ、とても楽しかったです。沿道の応援する人々が多いことにびっくりしました。だんだんと県民の関心が高まっているのでしょうか。今回が3回目の大会参加でしたが、今年も首里城祭まで足を運ぶことが難しかったのですが、国際通りで行われた「琉球王朝絵巻行列」を観ることができ、大満足でした。写真をたくさん撮りました。この美しい行

列を、開会式にとり入れてほしいと思います。大会参加者が一堂にそろう会場に王様と王妃が登場し、カラフルな行列を演出して、“歓迎”を表すことはいかがでしょうか。大会中の限られた時間にたくさんのイベントがあり、親族との集まりなどで、観たいものも観られず、が多いのですが、伝統色濃い絵巻行列は、ぜひ多くの海外ウチナンチュに観ていただきたいです。ですので、開会式にとり入れてほしいと切に願います。

楽しかったイベントの他、懐かしい友人や親族との再会もあり、心温まる思い出をたくさん抱えて帰宅しました。

第7回大会の開催もいまから楽しみにしています。

智美 ポロウス

(アメリカ・フロリダ州ペンサコーラ沖縄県人会 会長)
ウチナンチュ大会に向けてのお勤め本当にご苦勞様でした。県の担当者並びに職員の皆様のおかげでとても感動的な世界のウチナンチュ大会を終える事ができたことに心からお礼申し上げます。今回初めて世界のウチナンチュ大会に参加しましたが、こんなにも素晴らしいものとは想像もつきませんでした。改めてウチナンチュということに誇りを持つと同時に、小さな島沖縄がこんなにも世界各国の人々を惹きつける魅力を持っていることをとても光榮に思います。今回初めてことで何もわからず至らないところがあった自分に反省すると同時に一人でも多くの方が次回のウチナンチュ大会に参加してほしいと願っております。

今回私たちの会から参加した人々は皆、又次回も参加したいと言っております。“一人の小さな手、何も出来ないけどそれでもみんなの手と手が集まれば何か出来る、何か出来る”ウチナンチュ大会に参加して感じた事です。

それと、ウチナンチュ大会に向けて関係者の方々が使った時間、費用これは決して無駄にして欲しくありません。皆様一人一人に本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました、と伝えたいです。第6回世界のウチナンチュ大会のご成功おめでとうございます。

Hideko Margie Baldwin ヒデコ・マージー・ボルドウィン

(アメリカ・フロリダ沖縄県人会 会長)

This was my second festival. 1st as President. This time I participated in much more things offered by festival.

Most important feedback for Non-Japanese

speaking USA attendees is to have

1. English version of all communication at the same time as Japanese version.
2. Give the FESTIVAL GUIDE at the beginning at opening ceremonies or send with registration pack in advance for tourist planning & not at end at closing. (I prefer send with registration pack or place pdf version online on website - even posting this past guide online will be helpful for general tourism.) Many of our questions were addressed in guide, but we got them TOO LATE to take advantage. If possible send pdf file or post 2016 Guide on website for download.
3. Loved the efforts made by the festival committee. All staff members were polite & welcoming. THANK YOU!
4. Committee reconvenes too late to get information out in timely manner for tourist planning. Most of us buy our tickets 6 months ahead of festival. If we had information of what else is going on in Okinawa we can adjust our travel plans to include extra activities. If tour packages are offered early enough, we can visit other islands and other events.
5. Maximize tourism for Okinawa. Help travelers know more of what Okinawa offers.
6. I really missed the Naha bus tour of 2011. I thought that gave the most comprehensive intro to Naha area & culture for new tourists.

利江 セルベイニー

(アメリカ・ジャクソンビル沖縄県人会 会長)
私は4回目の大会参加でしたが今回程とっても沖縄県民である事に誇りを思いました。それと同時に如何に沖縄が世界の平和に向けてウチナンチュの魂を発信し 沖縄の文化、歌三線と踊りを大切に何処でも何人でもイチャリバチョーデーとウチナンチュならではの心を原動力とし活躍をしているのだと。又、県庁の皆さんも大変忙しく人手が足りないほどだと思いましたが、二つほど意見を宜しいでしょうか。

前夜祭のパレードの日は毎回思うのですが列の整理がいまいちなと思いました。小学校校舎広場一杯の人ですから大変だと思います。次回から校舎を枠に番号をうち各会長に校舎の番号表示コピーを配り並んで戴ける様にしたら如何でしょうか。そうすれば人手、物のセーブになるのでは！

次に私としては会長会合の日が1日の二時間では物足りませんでした。今は色々な面で世代交代と言われています。此処ジャクソンビルでもそうです。南米と北米とでは地域、環境状況によって取り組み方が多々違うと思います。其中でも南米ブラジル、ボリビアでは若者の活動が盛んと聞いています。其の方達の取り組み、その他を参考に私達も頑張り此処ジャクソンビル県人会を若者にバトンタッチして行きたいと思っています。最後に十月三十日が世界のウチナンチュの日の決定も感激いたしました。素晴らしい六回目の大会本当に有り難うございました。

フローレス 美香

(アメリカ・ニューオーリンズ沖縄県人会 (ゆんたく会))
世界のウチナンチュ大会に参加しての感想
沖縄で、1968年に出生、28歳で国際結婚、3児の母となりアメリカ合衆国へ移住。アメリカルイジアナ州ニューオーリンズ沖縄県人会 (ユンタク会) 5人での参加でした。私自身は、今回初めての参加。大会前まで、大会事務局との連絡の取り合い、パレード参加の準備など、戸惑いながらも無事に終えられたこと幸いです。

オープニングセレモニーをはじめ、数々の素晴らしいイベント、限りある時間では回りきれず歯がゆい思いもありました。私自身、沖縄を離れて初めて自分自身が沖縄出身である事にほこりを持って、3児の母になった時に、我が子供達にも日本、沖縄人と云うほこりを持って欲しいと強く願い、日本語教育にも力を入れてきたつもりでいました。

開会式・閉会式で、4世、5世の方々の挨拶を目の当たりした時、彼らの祖先(すなわち私と同じ1世)は、もうこの世の中には、いらっしゃらない方も……。にもかかわらず、日本語、うちなーぐちを交えて挨拶されている姿はなんとも不思議で、物凄く感動しました。私の子供達つまり2世、わが子の子達に続く3世、4世(私の孫、ひ孫)が、果たして私自身がこの世をさり、天国から我が孫、ひ孫が、ウチナンチュである誇りを持って世界のウチナンチュ大会に参加してくれるのだろうか?と想像したとき、今の私自身の子供達への、日本語教育、日本、沖縄の文化教育など、もっと真剣に子供達と向き合う必要があると強く感じました。

今回、世界のウチナンチュ大会に初参加で、私自身が、子供達に伝えたい事が、はっきりと見えたような気がします。世界のウチナンチュ大会は、とても素晴らしく他の都道府県では、不可能な大イベントだと思います。大会事務局の皆様の大変なご苦

勞の賜物です。ここに、感謝の気持ちをお伝え申し上げます。乱文で申し訳ありません。

Thomas Okuma トーマス 奥間

(カナダ・バンクーバー沖縄県友愛会 会長)

Thank you again for the great work you and your staff have done. Vancouver Okinawa-ken Yuaikai participants immensely enjoyed the festival.

I have two suggestions.

First suggestion is to add an additional conference for the Kenjinkai presidents to give us an opportunity to network so that we can exchange information and find out how each of the Kenjinkais are operating around the world. The Yuntaku Sabira conference held on Friday, October 28, which I attended was great but unfortunately, we did not have enough time to interact with other Kenjinkai leaders. The Yuntaku Sabina conference was more to do with how to better prepare for the next five years leading to the 7th Uchinachu Taikai.

My second suggestion is to eradicate the Rave music at the closing ceremony. Many attendees including myself, thought the Rave music was quite overwhelming. It was very loud and very uncomfortable on one's body. I did notice many of the seniors leaving the stadium early because of the loud Rave music.

神山 吉洋 (カナダ・トロント球陽会 会長)

第6回世界のウチナンチュ大会に参加し翁長県知事の議会議案提出と県議会議員様方承認と各地方市町村協賛にて開催され沖縄県民ご賛同の大会に参加いたしました事誇りに思います。

大会準備、準備期間短い5ヶ月で開催に結びつけた職員の皆様方のご苦勞のお陰で感激と感動の祭り大会に参加出来ましたことは参加者全員に取り生涯の誇りとして記念に残ります。

沖縄県の海外移住者に対する思いやりと沖縄県民との絆の深さを一段と肌で感じました。世界に跨る移住者の方方を郷里沖縄県に招待し苦勞を労い頂きました事は参加者の一人として厚くお礼申し上げます。県系の子弟の方方には祖父母の郷里沖縄の伝統文化や武道関係だけでなく親戚や県民との暖かい交流などで沖縄県の真髓を改めて確認したと確信致します。沖縄県民の皆さん方にも豊かな社会を築く為

に日々ご苦勞な事も有るかとおもいますが、今回の大会宣言の如く移民の日宣誓設定致しましたように将来も大会継続を切にお願い致します。海外からの参加は沖縄県を認知するだけで無く県民の皆様方の国外の事情や文化など多種に渡り吸収出来るよい機会と思います。お互いに認識の共有になります。

感激と感動の大会終わり未だ胸のときめき治まりません。次回の第7回の世界のウチナーンチュ大会開催に向け一言お願いしたい事があります。海外からの参加者に余裕を持って開催日の決定通知をお願いしたいと思います。その理由は参加者に取り旅行費用を蓄える期間にゆとりをもたらす位の期間が必要と考えます。大会渡航費にその他の費用で一人当たり何十万の費用が掛かります。特に若い世代の方は家族全員で参加したくても費用の面で断念する方も多いです。又、仕事柄で予定を組むにしても一年くらいの余裕あれば今回の参加者の倍以上の方が郷里訪問に向け準備できると思いますので翁長県知事は是非この件ご考慮願えれば幸甚です。

重ねて大会の感動、感激に導き盛況に終了致しました事は翁長県知事はじめ県議員の皆さんそして各市町村の皆様方に心身よりお礼申し上げます。

新里 恒夫

(ブラジル・カンポグランデ沖縄県人会 会長)
宮里 和直
(ブラジル・カンポグランデ沖縄県人会 連絡担当、海外功労者)
2016年世界ウチナーンチュ大会の感想

- 1－前夜祭のパレードでは沿道から「お帰りなさい」の言葉にはジーンとくるものがあった。
- 2－パレードの間は暑かったので水を買って飲む人が多かったがゴミ箱がなく空ボトルの処理に困った。
- 3－一般バスの無料乗車券（パス）を頂き7回利用しました。利用したバスの乗客の半数以上は海外参加者の様に感じました。ありがたく思い、又うれしく楽しくなりました。

出来ましたら開催1週間前から終了後1週間まで(約20日間)の有効券であれば沖縄を観光して帰ろうと思う人々には非常に助かるとおもいます。

4－当カンポグランデ市からは今回90名（これまでは毎回50名程)参加しました。その多くが2,3世で初めての参加者でした。そして皆感動し感激しました。

5－多くの催し物があり短期間だった為多くの催し物を見ることが出来なかった、開催2週間程前までに催し物の案内が県人会が参加者まで届くよう

に出来れば良いと思います。(少数の催し物の案内は事前に県人会にきておりました)
6－インターネットを満足に利用出来ませんでした(wi-fi ポイントは有ったのですが)。

1週間、1ヶ月レンタルのチップが成田空港にはあったとの事ですが沖縄ではいろいろと搜したのですが無かったとのことです。

中村 侑史

(オキナワ日本ボリビア協会 会長、海外功労者)
第6回世界のウチナーンチュ大会にご招待を賜り、沖縄県民を初めとして世界各国からの参加者多数のウチナーンチュの深い交流が築かれました。今回この大会を立案された主催の沖縄県の努力によって大会を盛り上げられ大成功されましたことは、内外からも大きな評価をされておることです。我々海外に居住をしておるウチナーンチュとしては大きな誇りであります。

特に今回の大会には全世界に分布して居る7,000名余りの同胞が故郷に一堂に集まり、沖縄の中心街道の国際通りにて多数の海外からの参加者が大パレードに参加、沿道から大勢の県民の皆様からの温かい大きな声が心に響き渡り非常に感動しました。このことは我々にとって一生忘れることの出来ない程、永遠に肝に銘じウチナーンチュとしての深い親しみを感じておることです。又、開閉会式、その他、数たくさん催しも数百年前の昔の歴史文化を継承されたことも多く、今大会でも昔のままにご立派にご披露されて素晴しさを観察することが出来ました。このように昔からの無限の文化遺産が現在沖縄の各地域に継承されておることは、諸先輩に対して敬意を表することです。我々もこの大会に参加して体験した事の一部でも持ち帰りその立派な歴史文化を自国のウチナーンチュに継承される事は今後の沖縄と海外のウチナーンチュの絆に繋がることと共に、交流が深くなり団結が促進され、ウチナーンチュの益々の発展になることが期待されます。

知念 良信

(ボリビア沖縄県人会 会長、ウチナー民間大使)
この度第6回世界のウチナーンチュ大会にご招待をいただき、心より感謝申し上げます。また、ウチナー民間大使として認証され、今後も沖縄県とボリビアとの友好の懸け橋としての任務を担うこととなりました。今後ともよろしく願いいたします。

私は、このたび初めてウチナーンチュ大会に参加いたしました。初めての参加に、ボリビア参加者の

代表として世界の皆様と貴重な時間を共にしたこと、私の人生の中でも感動的な、思い出深い大会となりました。

久しぶりに那覇空港へ到着し、沖縄県に一歩足を降ろした瞬間から、実行委員会や多くの方々の出迎え、沖縄県在住ボリビア関係者の皆様のあたたかな歓迎をいただき、その後、国際通りの前夜祭パレードで多くの皆様との出会い、開会式、いろいろな交流会、イベントが進むにつれて、次第に期待と興奮が高まり、最後の閉会式のグランドフィナーレは、感動の集大成となる、すばらしいイベントでした。

世界各国のウチナーンチュ、沖縄県民の皆様と共に貴重な時間を共有したことは光栄なことでした。どのイベントに参加しても、沖縄県に代々伝わるあたたかい心「精神」は私たちの心に直接伝わりました。

大会の企画から実行まで多くの皆様の努力が実ったこと、翁長知事様はじめ、関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。このようなすばらしい体験ができたこと、ボリビア参加者一同、感謝申し上げます。

今回ボリビアからは約130名の参加者が、世界のウチナーンチュと交流することができました。従来の倍の参加者数の中には、若者、そして17名の中学生がホームステイ事業と体験入学も兼ねて、祖父母の故郷沖縄県を訪問することができました。

世界に拡散している日本人の中で沖縄県は、最も多いウチナーンチュの人口を誇るのではないかと考えられます。ボリビアでも、「OKINAWA」という行政地域が設置され、私たちは、この「もう一つのオキナワ」を沖縄県の皆様に紹介したいと思い、準備を進めてまいりました。特にその「もう一つのオキナワ」の中学生は、日本語や沖縄県の伝統、文化が学校で継承され、子供達に祖父母の故郷や、ボリビアに移住した経緯について授業が行われております。

オキナワ第一地域の日ボ学校、オキナワ第二地域のヌエバエスペラン学校には、沖縄県派遣の日本語教師によって、日本や沖縄県についての知識を深める授業が継承されました。このたび、派遣教師の提案により、中学生が祖先の故郷を体験する企画が持ち上がり、実行に移されました。感受性が最も敏感で豊かな中学生に、直接沖縄県を見聞する機会が与えられ、本事業はきっと将来大きな実を結ぶことと確信しております。

私たちボリビアのウチナーンチュも世代交代が進み、子や孫に沖縄県の「チムグクル」を直接伝えられることができる一世の方々も少なくなりました。

「もう一つのオキナワ」は、主に戦後移住者の居住区となっておりますが、ボリビアの沖縄県人移住は、戦前、1908年にペルーからアンデス山脈を越えてきた県人から始まったことがはっきりしております。戦前移住者の子孫は、この事実を知らない方が多く、ボリビア沖縄県人会では、110周年を迎える2018年に、戦前、戦後のウチナーンチュをまとめて、ボリビアのウチナー社会の発展をお祝いし、継承することを、今、私たちにできる大切な事業として準備を進めております。

第6回世界のウチナーンチュ大会にて育んだ友好の絆のように、ボリビアのウチナーンチュも団結した姿を世界に誇れるよう、努力を重ねたいと願っております。南米、ボリビアに住むウチナーンチュとして私たち一人一人が、ウチナーンチュのアイデンティティーを誇れるような社会構築を目指します。第6回世界のウチナーンチュ大会は、このような気持ちを確認する意義深いイベントでした。沖縄県の皆様、大会実行委員会の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

ジョン・クナ・ラジ (マレーシア・ウチナー民間大使)

1. The Uchinanchu Festival is very well organized, but there is one limitation.
2. It appears that a new Committee is set-up in the Okinawa Prefecture Office for every Uchinanchu Festival.
3. A lot of proposals are made during the various Meetings but these are just repeated every Festival.
4. Nothing gets implemented as there is no permanent division or department in the Okinawa Prefecture office that deals only with the Uchinanchu Festival.
5. I think it would be good idea to have a permanent division or department in the Okinawa Prefecture Office that only deals with Uchinanchus overseas and the Uchinanchu Festival.

新崎 康郎 (フランス沖縄県人会 会長)

皆様が計画遂行されました第6回世界のウチナーンチュ大会は大成功のうちに終わりました。我々も参加した皆様のそれぞれのイベントはすばらしくて強く胸に迫り来るものがあり、一月が過ぎようとする今もはっきり目の裏にうかびます。地球儀から見ればやっと名前が載るほどの小さな島の、このような

ユニークで大きくて大事なメッセージを発する……。この様な催しは世界を見渡してもほかに無いでしょう。僕の連れは典型的なフランス人ですが、僕と同じように感動しておりました。

皆様のここ一年ほどの活動に賛辞を申し上げます。ほんとうにお疲れ様でした。次回5年後の大会に向けて活動するであろう次世代の育成にもどうぞ力をお貸し下さい。お願い致します。

簡単で字足らずではありますが感謝の気持ちはいっぱいです。

2 大会の成果

今大会は海外から史上最多の7,353名の参加者をお迎えし、県民も含めた世界のウチナーンチュ同士、幅広い交流を図ることができました。

ウチナーネットワークの継承・発展、ソフトパワーの発信、若者の海外飛躍の促進を目的とした今大会の具体的成果を挙げます。

(1) 具体的成果

① 世界のウチナーンチュ同士の幅広い交流

今大会は70を超えるイベントを用意し、県民も含めた世界のウチナーンチュ同士が幅広い交流を行えるよう配慮しました。開会式・閉会式の会場は、前回同様、県下最大規模の収容人員を誇る沖縄セルラースタジアム那覇としました。天候にも恵まれ、開会式では約1万3千人、閉会式・グランドフィナーレでは約1万5千人の方々が集い、ウチナーンチュが一体となり魂が震えるほどの感動を共有しました。

また、30の市町村で歓迎会などのイベントが行われ、自身や家族の出身地でのより身近な温かい交流が行われました。



② 第5回世界若者ウチナーンチュ大会の開催

第5回世界のウチナーンチュ大会を機に発足した世界8カ所（沖縄、アメリカ、ハワイ、ブラジル、ボリビア、ペルー、アルゼンチン、イギリス）に支部を持つ世界若者ウチナーンチュ連合会（略称：WYU A）が、2012年から毎年海外で開催してきて2016年で5回目となる「世界若者ウチナーンチュ大会」を、初めて地元沖縄で10月20日（金）から23日（日）まで4日間にわたって開催しました。

彼らがこれまでに形成したネットワークを最大限に活用し、「ウチナーネットワークの拡大と発展」、「地域に目を向けるアクティブな若者の創出」を目指し、「オープニングセレモニー」、「世界のオキナワ」、「世界の芸能フェス」、「41市町村歓迎会」、「地域愛かたやびら大会」、「Uchinanpic 2016」、「クロージングセレモニー・グランドフィナーレ」など多彩なプログラムが実施されました。

海外から約100名、県内から約2000名の参加者があり、世界の若者ウチナーンチュ同士が絆を深め、海外の若者にとっては「帰る場所」ができ、県内の若者にとってはグローバルな視点を持つことができるようになりました。

世界のウチナーンチュ大会の閉会式においては、ブラジル出身県系3世の松本カリナ沙登美氏が次世代代表挨拶を行い、連合会代表の玉元三奈美氏は若者宣言を行いました。

次回大会は2018年2月にペルーで開催することが決まっており、世界の若者ウチナーンチュのウチナーネットワークの継承・発展に向けた今後ますますの活躍が期待されます。



③ 沖縄独自のソフトパワーを発信する取り組み

しまくとぅばや三線音楽、琉球舞踊、空手、エイサー、沖縄角力、首里城祭など多くの文化イベントが開催され、沖縄独自のソフトパワーを発信することができました。

「エイサー EXPO」、「うまんちゅ三線大演奏会」、「しまくとぅば世界大会」、「『伝統組踊×現

代版組踊』～伝統と未来～」、「空手・古武道交流演武祭」、「我が住むは五大州Ⅱ（琉球舞踊、音楽イベント）」、「いやさっさ踊（もう）らな（民踊イベント）」などに多くの来場者があり、各会場とも盛況となりました。海外のウチナーンチュが沖縄の魅力を知り、戻ってから周囲の方々にPRすることを期待しています。



④ 「世界のウチナーンチュの日」の制定

今回大会の大きな成果として「世界のウチナーンチュの日」制定が挙げられます。

2016年1月、名護市在住アルゼンチン出身県系3世比嘉アンドレス氏、ペルー出身県系3世伊佐アンドレス氏の2人により、母県沖縄と県外海外のウチナーンチュが「ウチナーンチュ」であることを誇れる日、心を一にする日として「世界ウチナーンチュの日（仮称）」の制定が発案され、名護市議会に陳情がなされました。名護市議会においては意見書を全会一致で可決、6月の県議会においても陳情が行われ、7月13

日の経済労働委員会において、記念日を制定する処理方針が全会一致で採択されました。

大会事務局においては、国内外多方面にアンケートを実施し、圧倒的な賛成の支持を得、期日のついては大会最終日である「10月30日」に過半数から支持を得ました。

その後、8月の第4回実行委員会、大会期間中の県人会長・ウチナー民間大使会議での承認を経て、10月30日の閉会式において、2人のアンドレス氏と翁長知事によって「世界のウチナーンチュの日」の宣言文が読み上げられ、制定が高らかに宣言され、会場を埋め尽くした世

界のウチナーンチュからは盛大な拍手をもって祝福されました。今後、毎年県内・国内・世界



各地で「世界のウチナーンチュの日」を祝うイベントが開催されることが期待されます。

⑤ 世界のウチナーンチュ同士が意見を交換し、交流を深めるための取組み

大会2日目の10月28日に開催された「ゆんたくさびら世界のウチナーンチュ（県人会長・ウチナー民間大使会議）」では、ウチナーネットワークの次世代への継承、世界のウチナーンチュの日の取り組みなどをテーマに、海外の県人会や民間大使などが熱く議論を交わしました。従来の限られた代表者のみの討論から形式を変え、海外、国内、県内からの参加者160人を1グループ10人程度として16のグループに分け、円

卓毎に議論を行いました。

各テーブルでは活発な議論が交わされ、課題解決に向けたたくさんのアイデアやヒントが出されました。また、地位、年齢、性別などにとられない個人同士での交流が行われたことで、より幅広くウチナーンチュ同士の絆が深められ、ネットワークの発展・拡大につながりました。議論した内容は「行動宣言」としてまとめられました。今後、世界のウチナーンチュ1人1人が課題に自ら取り組んでいくことが期待されます。



(2) これまでの成果

① 第1回大会（1990年）

ア 目的

「世界のウチナーンチュネットワーク」の構築
世界に雄飛し、活躍しているウチナーンチュは沖縄の貴重な人的資源である。これらの財産を経済、文化、学術等の各分野において、本県を要として結びつけ、有機的に機能させるためのネットワークを確立する。

イ 成果

ウチナー民間大使制度の発足

② 第2回大会（1995年）

ア 目的

世界各地に在住するウチナーンチュ等、本県との関係者を全世界的なネットワークで結び、経済、芸能等の各分野において、人的・物的交流を促進、さらに一層強力に進展させ、双方の社会・経済の発展や活性化に資するとともに、我が国の「南における国際交流拠点の形成」を目指す。

イ 成果

WUB（ワールドワイドウチナーンチュビジネスアソシエーション）の設立

③ 第3回大会（2001年）

ア 目的

世界各地で活躍するウチナーンチュを中心とする人的ネットワークを拡大発展させ、「世界の架け橋」を構築し、経済等あらゆる分野にわたる持続的な交流を促進し、相互の発展と活性化に寄与するとともに、新たな世紀を迎え、本県が国際交流の拠点として飛躍することを目指す。

イ 成果

ジュニアスタディーツアーの発足

④ 第4回大会（2006年）

ア 目的

移住者世代の功績を踏まえ、ウチナーネットワークを担う次世代の育成を図る大会とし、世界に広がるウチナーネットワークの継承さらには深化・拡充を目指す。

イ 成果

ホストファミリーバンク（現海邦養秀ネッ

トワーク構築事業）の設置

⑤ 第5回大会（2011年）

ア 目的

次世代育成等基本方針に基づいた事業を行うことによりウチナーネットワークを持続的に発展させるとともに、世界に向けた新たなネットワークの展開を目指し、「沖縄21世紀ビジョン」に謳われる「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に資することを目的とする。

イ 成果

世界若者ウチナーンチュ連合会の設立
人材育成のための大型基金創設の提言

⑥ 第6回大会（2016年）

ア 目的

ウチナーネットワークを持続的に継承、発展させるとともに、沖縄独自のソフトパワーを国内外に発信し、その魅力と可能性を活用して沖縄の未来を切り開いていくことを目的とする。

イ 成果

第5回世界若者ウチナーンチュ大会の開催
「世界のウチナーンチュの日」の制定

3 今大会の特色と課題

「第6回世界のウチナーンチュ大会」

実行委員会事務局長 川上 睦子

(1) 今大会の特色と成果

① 海外からの参加者が過去最高の7,300名余りにのぼったこと

第6回目となる今大会には、過去最高の7,353名が海外から参加しました。平成2年の第1回目の世界のウチナーンチュ大会から四半世紀が過ぎ、海外ウチナーンチュ社会においても世代交代が進み、沖縄生まれの1世や2世の方々が少なくなっていく中、大会への参加者数もそろそろ頭打ちなのではと事務局立ち上げ時は、少なからず心配していました。

ふたを開けてみればそれは杞憂であり、むしろ予想を超える数のウチナーンチュたちがはるばる海外から大会のために沖縄に来てくれました。

回を重ねる度に参加者数が増えているのは、大会が海外のウチナーネットワークの継承と拡大に大きく貢献していることの証であると言えます。

これほどの参加者の増化の要因はいくつかあると考えられますが、5年前の前回大会で、メイン会場を沖縄セルラースタジアム那覇に移したことが大きかったと思います。1万5千人収容のスタジアムで行われた開・閉会式、グランドフィナーレでは、海外、県外のウチナーンチュと県民が一緒になって大会の感動を共有できたこと、県民とウチナーンチュの幅広い交流が実現できたことが、海外ウチナーンチュの間で口コミで広がり、ぜひ次回も参加したいという思いに駆り立てたことでしょう。今大会では少なくとも3千名が初めて参加しており、前回大会の成功が新たな参加促進につながったことは間違いないでしょう。

今大会終了後、海外のウチナーンチュからは、「感動した」「大変すばらしかった」「次もぜひ参加したい」という感想が多く寄せられました。今大会の成功によって、大会の認知度はますます高まり、ウチナーネットワークのさらなる継承と発展に貢献するとともに、次回以降の大会参加の意欲につながるだろうと確信します。

② 「世界若者ウチナーンチュ大会」～ウチナーネットワーク次世代継承への原動力

前回大会を機に発足した世界若者ウチナーンチュ連合会は、大会の翌年から毎年海外で「世界若者ウチナーンチュ大会」を開催し、ウチナーネットワークを次世代へ継承する原動力として欠かせない存在となっています。昨年までの4回にわたる若者大会の開催により、海外の若い県系人の中で大会の認知度が高まったこと、そして第6回大会では、「若者ウチナーンチュ大会」を大会のプレイベントとして位置付けたことで、大会への多くの若い海外県系人の参加につながりました。

若者大会は、企画から運営まですべて若者自らの手によって行われ、若者らしい趣向をこらした様々なイベントが行われました。海外と県内の若者が交流を通して、強い絆を結び、海外の県系人にとっては自らのルーツやアイデンティティの確認につながりました。また、県内の若い世代にとっては、海外とのつながりを通して自分の地域や文化のよさを改めて見つめなおし、さらに誇りを感じるきっかけとなり、若者大会での新しい出会いや感動を共有したことが、今後多くの若者が海外へはばたく契機となることが期待されます。

すでに、2018年2月にペルーで第6回の若者大会の開催が予定されています。今後ますます、若いウチナーンチュの絆が強く、深くなっていくことが期待されます。

③ 「世界のウチナーンチュの日」が制定されたこと

今大会の最大の成果は何といても「世界のウチナーンチュの日」を制定したことです。県内に住む南米出身の2人の県系3世の若者の発案により実現しました。大会最終日の10月30日、世界からのウチナーンチュが一堂に集まった閉会式の中で、知事と若者2名によって「世界のウチナーンチュの日」制定が宣言されました。ウチナーンチュであることを祝い、ウチナーンチュであることを誇りに思える感動的な宣言で、会場では「ウチナーンチュ」コールが響き渡りました。会場はもちろん世界中のウチナーンチュが感動したことでしょう。

大会は5年に一度の開催ですが、これからは毎年その日になると、海外にいるウチナーンチュは沖縄に思いはせ、ウチナーンチュであることを思い起こすとともに、県民や国内に住む

ウチナーンチュにとっても、世界中のウチナーンチュとのつながりを感じられる、様々な取組が、今後毎年この日を中心に世界各地で行われることが期待されます。

県としても、「世界のウチナーンチュの日」の普及と定着を図るため、制定の趣旨に沿った様々な取組を実施していきます。

(2) 次回大会への課題

ウチナーアイデンティティの継承には、沖縄の伝統文化の継承が深く関わっていることから、今大会では、沖縄独自の文化や風土、歴史、いわゆるソフトパワーの魅力を国内外に発信することを大会の目的の一つとしました。開会式における海外、県内奏者による三線の一斉演奏やしまくとぅば世界大会、エイサー EXPO等の主催イベントの他にも、組踊公演や空手の演武祭、古典芸能公演等の関連イベントなど、沖縄の文化の素晴らしさを再認識させてくれるイベントが目白押しでした。

今大会では、会場に入りきれない観覧希望者のために、会場に隣接するセルラーパークで大型スクリーンを設置したほか、インターネットでも開会式や閉会式、グランドフィナーレの模様を同時配信し、会場外での観覧を可能にし、世界中へ同時に大会の感動を伝えることができました。

一方で、すべてのイベントを限られた大会期間中に実施する必要があることから、希望のイベントスケジュールが重なる等、参加したくてもできないイベントも多く残念だったという声も聞かれました。

また、海外参加者の増加は、非常に喜ばしい反面、それによって大会の運営上の課題も増えつつあります。近年の沖縄への入域観光客数の増加の影響もあり、大会参加者が宿泊先の確保に苦労したという声が多く寄せられました。また、平日の午後に国際通りを交通規制して行われる前夜祭パレードは、参加者が増えたことで時間内の終了が困難になりつつある他、海外参加者の増加以上に県内の参加希望者が増えたことで、閉会式、グランドフィナーレでは入場制限をせざるを得ない状況となりました。

今回大会の成果により、次回大会ではさらに多くの参加者を惹きつけることも想定し、これらの課題への対応策を早い時期から検討を始めることが必要となってくるでしょう。

最後に、今大会へ参加するために、はるばる海外から来てくれた世界中のウチナーンチュには、本当に感謝します。また、県内で一緒になって大会を盛り上げていただいた国際交流団体、大会運営を支えてくれた多くのボランティアの皆様、多彩な連携イベントを実施した各団体、また、エイサーや三線のイベント等、様々なイベントに出演していただいた多くの県民の皆様、そして、大会実施を支援下さった協賛企業にも心から感謝したいと思います。

今大会では、世界中のウチナーンチュと県民が交流を深め、いたるところで懐かしい再会や新たな出会いがありました。こうした感動の機会を提供してくれる、ほかでは真似できない大会、それが世界のウチナーンチュ大会であり、この大会が世界中のウチナーンチュを末永く結びつける要であり続けることを願います。

4 アンケート結果

『第6回世界のウチナーンチュ大会』大会参加者アンケートの集計結果

琉球大学 加藤 潤三
神戸市外国語大学 前村奈央佳

1. 調査の概要

我々の研究グループでは、第6回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局と共同で、『第6回世界のウチナーンチュ大会』の参加者を対象としたアンケート調査を実施した⁽¹⁾。

この調査は、2006年の第4回大会調査（有効回答数778）および2011年の第5回大会調査（有効回答数1045）に続いて、3回目の調査になる。琉球大学の研究者を中心に、県外の大学（神戸市外国語大学・上智大学）の研究者も加わりながら、多様な人文・社会科学の知を交えつつ、調査・研究を推進していった。

○研究代表者・分担者

加藤 潤三（琉球大学法文学部：研究代表者）
前村奈央佳（神戸市外国語大学国際関係学科：研究代表者）

金城 宏幸（琉球大学法文学部）
野入 直美（琉球大学法文学部）
酒井 清（琉球大学法文学部）
山里 絹子（琉球大学法文学部）
グスターボ・メイレレス（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻後期課程）

○調査スタッフ

石原 綾華・山下 千春
琉球大学法文学部心理学コース学生スタッフ24名・神戸市外国語大学学生スタッフ19名

調査では、過去の大会調査で測定した質問項目を踏まえつつ、新たに多様な質問群を設定し、世界のウチナーンチュ大会にかかるウチナーンチュの人々の社会的・心理的側面を明らかにすることを主目的とした。その中でも本報告では、『第6回世界のウチナーンチュ大会』における参加者の実態と、大会の評価と効果を検証することを目的に、以下の3点について集計・分析を行った。

① 回答者に関する基礎的情報として、属性（デ

モグラフィック）の分析を行い、参加者の実態について明らかにする。【どのような人が大会に参加したか？】

② 大会に対する参加者の満足度や不満点などについて検討し、参加者の視点から大会への評価を行う。【大会はどうだったか？】

③ 大会目標・目的（ウチナーンチュアイデンティティの継承、ウチナーンチュネットワークの構築、県民の海外志向性の向上）に関する分析を行い、大会それ自体の効果を検証する。【大会は「ウチナーンチュ」のためにどのように役立ったのか？】

2. 調査の方法

・調査協力者（回答者）

大会参加者1119名から回答を得た。ただし回答に不備のあったもの、および回答の妥当性の観点から15歳未満の参加者の回答を除外（26票）し、最終的な有効回答数は1093名となった。

・調査方法

質問紙による調査を実施した。調査は大会2日目から最終日（10月28～30日）の3日間実施した（大会の満足度など、ある程度大会に参加していないと回答できない質問項目があったため、初日は調査を実施しなかった）。

調査票はA3両面であり、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の4言語で作成した。なお、海外参加者と県外参加者、県内参加者では尋ねる内容に相違があったため、それぞれ【海外参加者用】（4言語）、【県外参加者用】（日本語）、【県内参加者用】（日本語・英語）を作成した。またオンラインでも回答できるよう、Web上でも紙ベースと同様のアンケートフォームを作成し、調査の一部はタブレット（iPad mini）で実施した。調査票（タブレットを含む）の配布および回収は、大会会場に設置したブースおよびその周辺（沖縄県奥武山公園内）にて調査スタッフが大会参加者に声掛けをし、協力の意思を示した参加者に調査を依頼した。調査終了後、謝礼としてお茶を渡した。なお調査日ごとの質問紙の回収数は表1の通りである。最終日である3日目に多くのデータを収集できた。なおオンラインでの回答も受け付けていたため、大会終了以降も若干ではあるが、データを

収集することができた。言語別での有効回答数は、日本語が746票、英語が236票、スペイン語が66票、ポルトガル語が45票であった

表1. 調査日ごとの回収数

	海外参加者	県外参加者	県内参加者	合計
1日目	100	11	174	285
2日目	52	8	237	297
3日目	227	15	244	486
大会終了以降	2	1	22	25

○本研究で使用した調査項目（本報告書に記載した項目）

本調査では、章末の調査票のように、参加者の属性や大会に関する項目、さらにはウチナーンチュに関する意識など、様々な質問を行った。ここでは、本報告で使用した項目を以下にリストアップする。なお上述のように本調査では海外、県外、県内それぞれの参加者用の調査票を作成した。項目の番号（Q1～）およびデザインは、報告書用に修正してある。

・属性に関する項目

Q1：参加者区分、Q2：沖縄系・移民世代、Q3：出生地、Q4：居住地、Q5：県人会の所属と活動頻度、Q21：性別・年齢、Q22：職業、Q23：学歴、Q24：階層意識

・大会に関する項目

Q6：大会参加回数、Q7：参加目的、Q9：大会満足度、Q10：大会への不満点・改善点、Q11：次回大会参加意図、Q12：大会の経済効果（参加にかかった費用）

・ウチナーンチュに関する意識等（大会の効果に関する項目）

Q8：海外志向性、Q13：ウチナーンチュアイデンティティ・現地へのアイデンティティ、Q17：ウチナーンチュネットワーク（大会を通じて新たに交流が生まれたネットワーク）

3. 集計結果

① 回答者の基本属性の分析

1) 年齢と性別

回答者の年齢構成は、10代から70代以上まで、ほぼ15%前後であった（本研究では15歳未満は除外したため、やや10代が少ない）。回答者は無作為抽出によって選出されていないため、この割合が大会参加者の実相（実際の全大会参加者

における年齢構成の割合）をどれほど正確に反映しているかはわからないものの、データ的には年齢層に関してほぼ均質であると考えられる。

なお、前回および前々回調査の報告書において、40歳未満の比較的若い年代の回答者数の推移が検討されているが、前々回調査では40代未満が16.3%、前回調査では36.3%、今回調査では39.9%であった。また20代、30代ごとで見ても、ほぼ前回と同程度（20代16%、30代16%）であった。この結果から、また大会会場における観察記録的な点からも、若い世代を含む、幅広い年代の人々が大会に参加していたと考えられる。

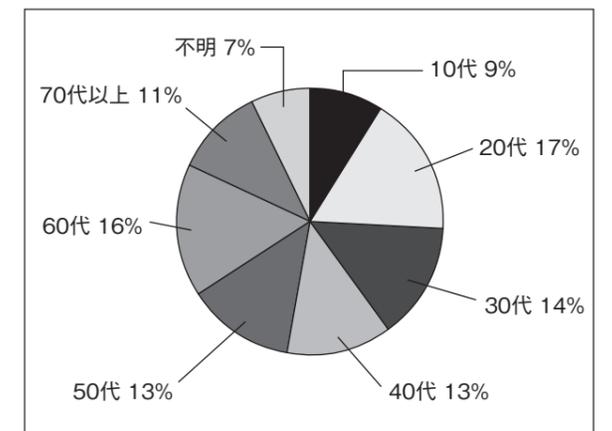


図1. 回答者の年齢構成 (N=1093)

次に性別については、男性が359名（32.8%）、女性が659名（60.3%）、不明が75名（6.9%）であった。相対的に女性が多いものの、前回調査においても女性の割合が61.4%とほぼ同等であったことから、この大会は比較的女性の参加が多いと言えるかもしれない。

表2. 性別ごとの年齢構成

	男性		女性		計
	度数	%	度数	%	
10代	24	6.7%	74	11.4%	98
20代	54	15.2%	125	19.2%	179
30代	52	14.6%	100	15.4%	152
40代	58	16.3%	82	12.6%	140
50代	53	14.9%	88	13.5%	141
60代	62	17.4%	112	17.2%	174
70代以上	53	14.9%	70	10.8%	123
計	356	100.0%	651	100.0%	1,007

⁽¹⁾ 本研究は文部科学省科学研究費補助金の助成を受けて実施した（基盤研究(C)、課題番号：15K04031、研究代表者：加藤潤三、および若手研究(B)、課題番号：16K17296、研究代表者：前村奈央佳）

2) 回答者の職業・学歴・階層意識

回答者の職業としては、「学生」、「専門的・技術的職業」、「無職（年金生活者を含む）」が多かった。学歴は、「大学卒（在学中を含む）」が最も多かった。社会経済的な階層意識として、「あなたが現在お住まいの社会の経済的な豊かさを5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこの中のどれに入りますか」という項目で尋ねた。最も多かったのは「中の中」であり全体の52%を占めた。次いで「中の上」が多く（22%）、参加者の階層が比較的高いことがうかがえる。

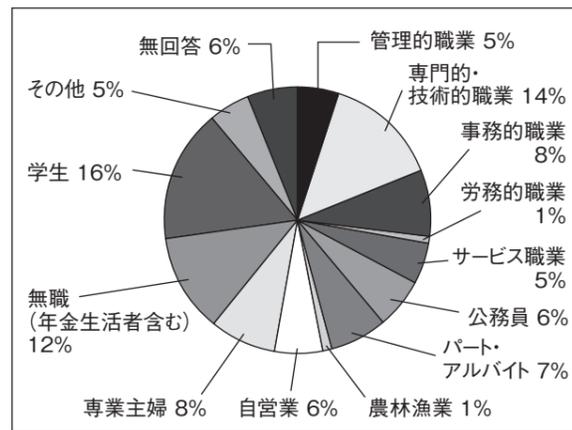


図2. 回答者の職業

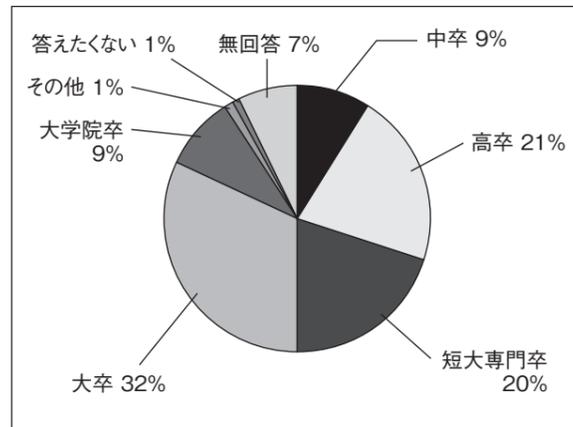


図3. 回答者の学歴

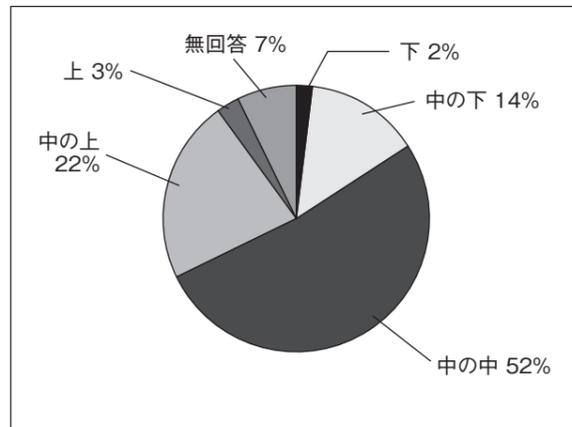


図4. 回答者の階層意識

3) 回答者の参加区分（海外・県外・県内）

回答者が、海外・県外・県内のいずれから参加したかを区分したのが表3である。なお本調査では、大会参加者を対象としたため、「沖縄に観光に来ていて、たまたま大会に来た」という観光客は調査の除外対象とした（調査票のQ1で判別）。

回答者のうち、海外参加者は381名であり、全回答者の34.9%であった。県外参加者は35名（3.2%）とあまり回答が得られなかった。なお県外

参加者のうち、もともと沖縄出身の人は11名であった。県内参加者は677名と最も多く、全体の61.9%を占めた。

なお各参加者区分ごとの性別比と平均年齢についても表3に示す。特徴的な点としては、海外参加者の平均年齢が52.7歳と、県外および県内参加者よりも高かった。そこで海外参加者の詳細な年齢構成を検討すると、60代および70代以上が多く、10代は3名と極端に少なかった。

表3. 回答者の参加区分

	度数	%	性別			平均年齢			
			男性	女性	不明				
海外参加者	381	34.9	146	38.3%	199	52.2%	36	9.4%	52.7歳
県外参加者	35	3.2	7	20.0%	24	68.6%	4	11.4%	46.6歳
県内参加者	677	61.9	206	30.4%	436	64.4%	35	5.2%	40.6歳

表4. 海外参加者の年齢構成

	度数	%
10代	3	0.9%
20代	42	12.2%
30代	45	13.1%
40代	43	12.5%
50代	60	17.4%
60代	85	24.7%
70代以上	66	19.2%
計	344	100.0%

4) 海外参加者の属性（沖縄系・移民世代・居住国・県人会の所属）

海外参加者381名の詳細について分析を行う。海外参加者の内、自身が沖縄系であると回答した人は253名（66.4%）と最も多く、次いで家族に沖縄系の人がいるとした人は57名（15.0%）であった。その他が52名（13.6%）いたが、これには「沖縄系の友人に誘われて」や「沖縄系の活動に参加」といった人たちが含まれていた。

次に海外参加者の移民世代について検討を行った。世代としては移民1世から5世までが参加していた。各世代の人数比は、1世が39名（15.4%）、2世が66名（26.1%）、3世が81名（32.0%）、4世が25名（9.9%）、5世は2名（0.8%）であった。なお前回および前々回からの海外参加者の世代構成の推移を図7に示す。前回と同様、海外参加者の移民世代の中心は3世となっていた。ただし、前回からの相違点をあげると1世の割合が低下したのに対し、4世が増加するなど、少しずつ海外からの参加者における世代のシフトも見えてとることができる。

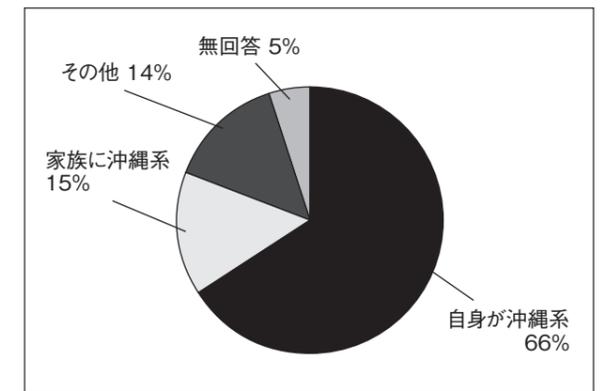


図5. 海外参加者の属性（沖縄系か）

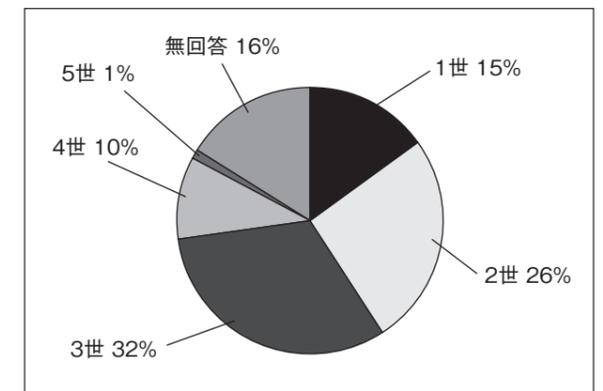


図6. 海外参加者の属性（移民世代）

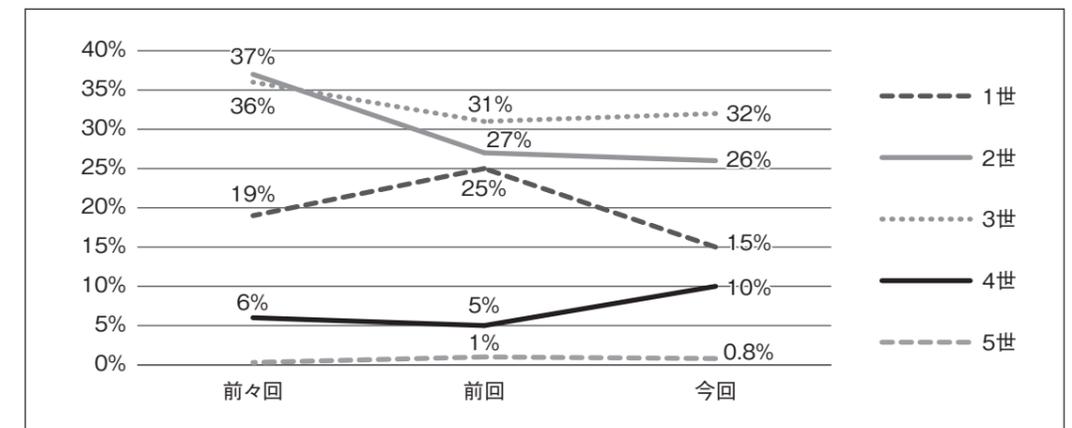


図7. 海外参加者における移民世代の推移

海外参加者がどの国および地域から参加したかを明らかにするために、現在の居住地について分析を行った。その結果、アメリカが205名と最も多く全体の半数近くを占めた。なおアメリカからの参加者のうちハワイからの参加者は62名であり、アメリカの参加者の約30%を占めた。次いで多かったのはブラジルの41名（10.8%）であり、以下アルゼンチン、ペルーと南米の国が多かった。なお表5中の右側の「大会参加者」は第6回世界のウチナーンチュ大会実行委員会

事務局調べの大会参加者数である。本調査と比較すると、ややブラジルの調査対象者数の割合が低いものの（4.6%の差）、おおむね実際の大会参加者の国・地域別の人数比と対応しているものと考えられる。なお海外参加者の回答であるにもかかわらず、現居住地として日本を挙げている人たちがいた。これらの人々はもともと海外移民で、現在は日本に住んでいるということである。

表5. 海外参加者の居住地

エリア	国・地域	調査対象者	大会参加者
北米	アメリカ (うちハワイ)	205 (53.8%) (62)	4,247 (58.1%) (1,861)
	カナダ	26 (6.8%)	197 (2.7%)
中南米	ブラジル	41 (10.8%)	1,131 (15.4%)
	アルゼンチン	37 (9.7%)	525 (7.1%)
	ペルー	25 (6.6%)	620 (8.4%)
	ボリビア	5 (1.3%)	138 (1.9%)
アジア	メキシコ	2 (0.5%)	23 (0.3%)
	フィリピン	3 (0.8%)	76 (1.0%)
	タイ	2 (0.5%)	15 (0.2%)
	マレーシア	2 (0.5%)	4 (0.1%)
	韓国	2 (0.5%)	3 (0.04%)
	台湾	1 (0.3%)	16 (0.2%)
ヨーロッパ	中国	1 (0.3%)	39 (0.5%)
	イギリス	2 (0.5%)	32 (0.4%)
	スペイン	1 (0.3%)	1 (0.01%)
オセアニア	ニュージーランド	1 (0.3%)	65 (0.9%)
	日本	17 (4.5%)	
	無回答	8 (2.1%)	
	計	381	7,353

海外参加者の人々がそれぞれ居住地で県人会に所属しているか尋ねた。その結果、227名(59.6%)の人が県人会に所属していた。県人会に所属している人々が、どれほど県人会活動に参加しているか尋ねたところ、「めったに参加していない」という人は2割程度、「ある程度参加している(82名、36.1%)」、「毎回参加している(80名、35.2%)」という人が7割以上であった。このことから、県人会に所属している人は比較的積極的に県人会に関わっていると考えられる。

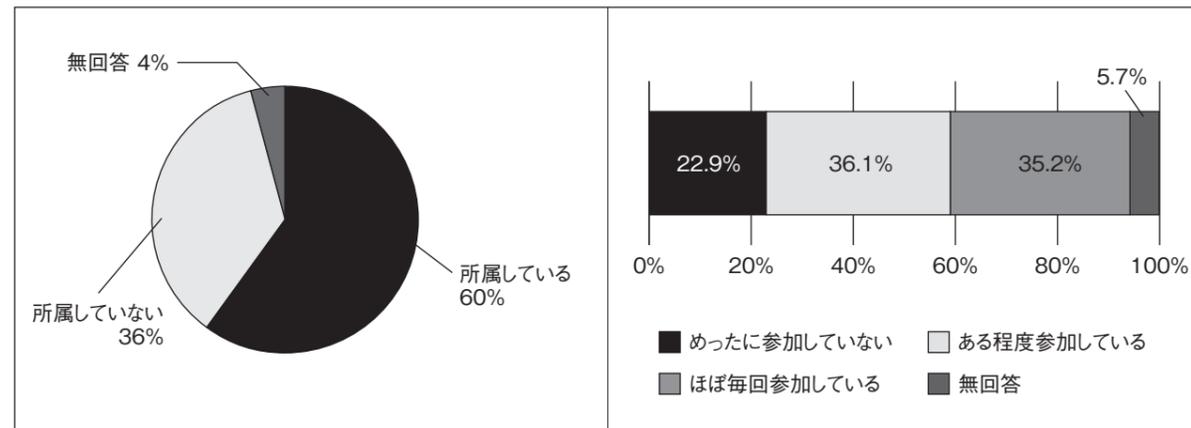


図8. 海外参加者の県人会所属と県人会活動

② 大会の評価に関する分析

回答者の大会に関する評価として、大会への参加回数、参加目的、大会満足度、大会の不満点、次回大会への参加意図、大会の経済効果について分析を行った。

1) 大会への参加回数

大会への参加回数の平均は1.53回であった。参加者区分別で言うと、やや海外参加者が多かったが、統計的には、3者間で有意な差はなかった。なお、今大会が初めてという人と2回目以上(リピーター)の人との割合を比較すると、海外、県外、県内いずれの参加者も7割弱が初め

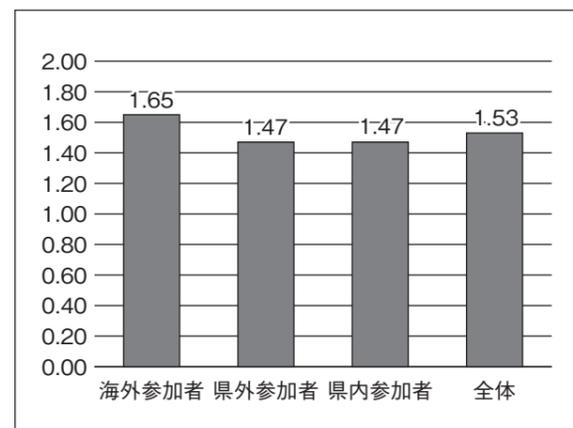


図9. 大会参加回数の平均

てであった。ただし海外からの参加者の中には、4回以上のヘビーリピーターも少なからずいた。

表6. 参加者区分別の大会参加回数

	海外参加者	県外参加者	県内参加者
1回	65.6%	68.6%	69.4%
2回	15.2%	20.0%	17.6%
3回	7.9%	5.7%	7.2%
4回	2.6%	0.0%	2.2%
5回	3.7%	0.0%	0.3%
6回	1.8%	2.9%	1.3%
無回答	3.1%	2.9%	1.9%

2) 参加目的

回答者がどのような目的で大会に参加したのか、その参加目的を尋ねた。当然ながら、海外

参加者と県内参加者とでは目的が異なるため、参加者区分ごとで結果を見ていく。

海外参加者では、「沖縄の伝統や文化を学ぶため」(15.7%)や、「親戚に会うため」(14.5%)、「自分のルーツを確認するため」(11.4%)などが多かった。県外参加者では、同様に「沖縄の伝統や文化を学ぶため」(13.6%)が多く、また「イベントに参加するため」(18.5%)というのも多かった。県内参加者では、「イベントに参加するため」(18.3%)というのが最も多く、それ以外として「世界の様々な文化と触れ合うため」(14.0%)、「世界のウチナーンチュと交流するため」(12.3%)、「沖縄系移民、世界の県系人について知るため」(10.2%)なども多かった。大きく言って、海外参加者にとっては「沖縄」と触れ合うこと、県内参加者にとっては「世界」と触れ合うことが目的となっていたと考えられる。

表7. 回答者の大会参加の目的

参加目的	全体		海外参加者		県外参加者		県内参加者	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自分のルーツを確認するため	141	5.2%	112	11.4%	3	3.7%	26	1.6%
世界のウチナーンチュと交流するため	305	11.3%	97	9.8%	7	8.6%	201	12.3%
沖縄県民と交流するため	144	5.3%	89	9.0%	5	6.2%	50	3.1%
いろんな世代のウチナーンチュと交流するため	93	3.4%	20	2.0%	3	3.7%	70	4.3%
沖縄の文化や伝統を学ぶため	272	10.1%	155	15.7%	11	13.6%	106	6.5%
世界の様々な文化と触れ合うため	252	9.3%	20	2.0%	3	3.7%	229	14.0%
沖案系移民、世界の県系人について知るため	230	8.5%	56	5.7%	7	8.6%	167	10.2%
親戚に会うため	174	6.4%	143	14.5%	2	2.5%	29	1.8%
友人・知人に会うため	154	5.7%	81	8.2%	5	6.2%	68	4.2%
県人会のメンバーとの交流を深めるため	30	1.1%	17	1.7%	1	1.2%	12	0.7%
周り(家族・親戚・友人・県人会など)から誘われて	165	6.1%	64	6.5%	6	7.4%	95	5.8%
誰かの付き添いで	84	3.1%	31	3.1%	3	3.7%	50	3.1%
イベントに参加(出演・鑑賞を含む)するため	381	14.1%	66	6.7%	15	18.5%	299	18.3%
仕事や勉強のため	142	5.3%	11	1.1%	5	6.2%	126	7.7%
その他	63	2.3%	20	2.0%	2	2.5%	41	2.5%
特に目的はない(通りすがりなど)	71	2.6%	5	0.5%	3	3.7%	63	3.9%
計	2,701		987		81		1,632	

3) 大会満足度

第6回世界のウチナーンチュ大会に対して、参加者の87%が満足(「非常に満足(553名、50.6%)」と「やや満足(399名、36.5%)」の合計)していた(図10)。

なお参加者区分別で示すと、海外参加者では「非常に満足」の割合が79.3%と極めて高かっ

た。一方、県内参加者では、全体としての満足度は高いものの、「やや満足している」(51.0%)が多かった。この点に関しては、統計的に差があることが確認されている($\chi^2(8) = 209.51, p < .01$)⁽²⁾。一連の結果より、本大会への参加者の満足度は高く、それは特に海外参加者で顕著であることが示された。

(2) 度数に相違があるかを見るために、カイ2乗検定という統計的手法で分析した。

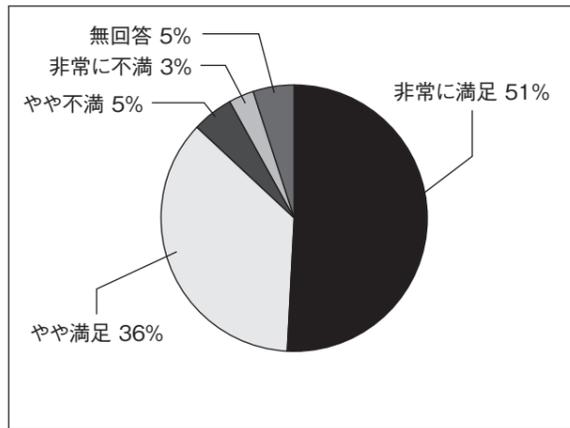


図10. 大会満足度 (全体)

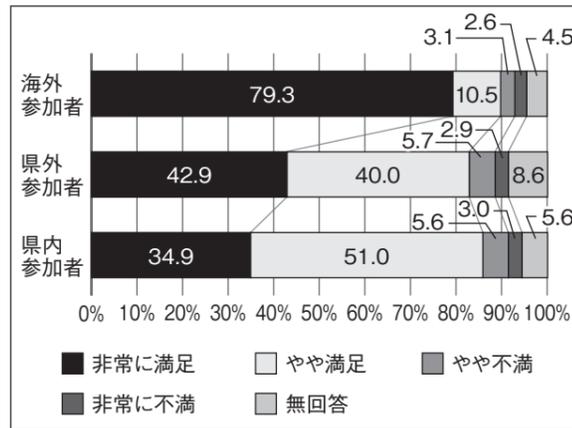


図11. 大会満足度 (参加者属性別)

4) 大会への不満点・改善点

大会に対する不満点・改善点として、海外参加者、県外参加者、県内参加者のそれぞれから得られた回答を累積したのが図12である。そもそも回答者として県内参加者の人数が多いため、総じて県内参加者からの不満・改善の声が多くなる。とはいえ、その中でも「海外のウチナンチュとの交流が少ない」に関しては、県内参加者の21%が不満・改善点としてこの項目を挙げていることになる（またその意見は、海外参加者からも少なからずある）。詳細は、以下（大会を通じて生まれた新たなネットワークについて）に示すが、この大会を通じて海外のウチナンチュと新たなネットワークを築き上げた

県内参加者の割合は極めて少ない。大会期間前後を通じて、様々な交流イベントは行われているが、参加者のニーズを満たすような、より親密で効果的な交流機会の方法について検討することも必要であろう。また改善・不満点として、「大会の宣伝が不足」をあげる人も多く、それは特に県内参加者から多かった（県内参加者の18%）。一方、海外参加者から不満・改善点として多かったのは、「移動がしにくい」（海外参加者の12%）、「大会事務局からの情報提供が不足」（同、10%）である。大会への参加者を増やし、盛り上げていくためにも、情報提供や宣伝など広報の充実化が必要かもしれない。

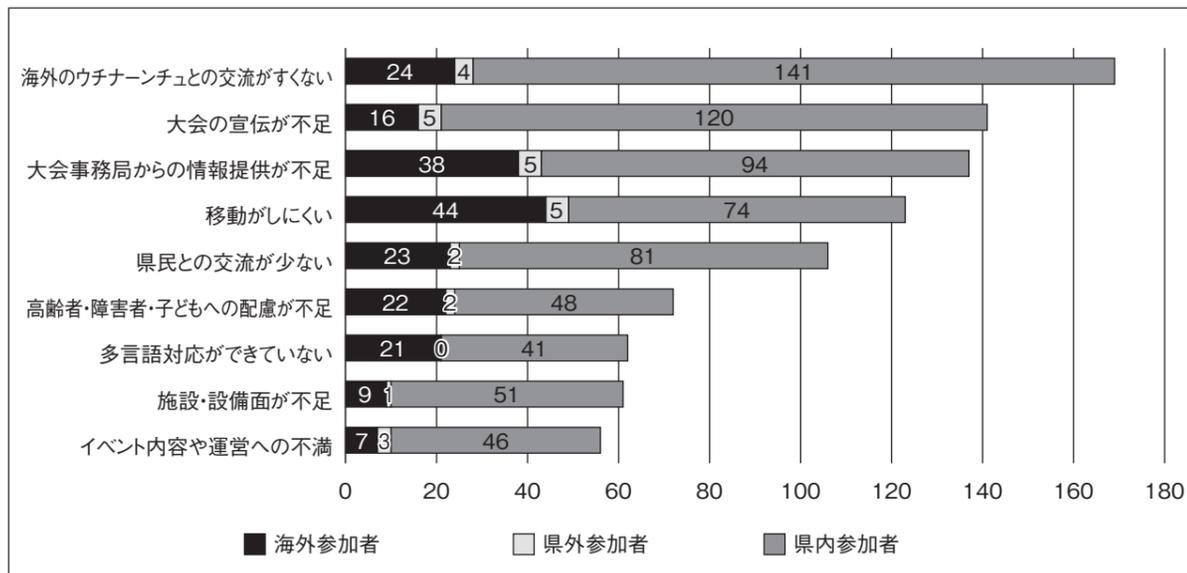


図12. 大会への不満点

5) 次回大会への参加意図

今回の第7回世界のウチナンチュ大会にも参加したいかを尋ねたところ、86.7%の人が次回も参加したいと回答した。なお、大会参加にコスト（お金・時間）のかかる海外参加者につ

いて詳述すると、「参加できない・したくない」と回答した22名のうち、1世が2名、2世が7名、3世が13名であり、4世以下はいなかった。参加できない理由としては、経済上の理由（7件）と健康上の理由（5件）が多かった。

表8. 次回大会への参加意図

	海外参加者	県外参加者	県内参加者	全体
参加できない・したくない	12.3%	11.4%	5.6%	8.1%
参加したい	81.1%	80.0%	90.3%	86.7%
無回答	6.6%	8.6%	4.2%	5.1%

6) 大会の経済効果

大会の参加にかかった費用（使用予定のものを含む）の平均値を算出した。むろん、海外からの参加と県外からの参加、県内からの参加ではかかる費用が異なり、海外参加者の費用が高い。総額で見ると、海外参加者は一人当たり約36万円近くの費用が掛かっていた。そのうち航空・宿泊費が約25万円程度であり、多くの割合を占めていた。なお、総額費用と各細目を合計した値が一致するわけではない。その理由としては、表中に回答者（N）を示しているが、回答していない人（欠損値）が相当数いること、また総額のみを一括して書いている人がいるため、計算上一致しないことが理由として考えられる。

そのため、経済効果に関する分析結果については、解釈に注意が必要である。

ただし、少なくとも回答者が自ら記入した金額を全て合計すると約1億653万円であった。当然ながら、記入していない人が費用を払っていないということではなく、回答率から考えると、参加者だけでもこの数倍は経済効果があったと考えられる。また、もちろんのことながら本研究で調査対象となった人は、参加者の一部に過ぎず、実数としてはこの数十倍の人が大会に参加している。我々の研究グループには経済学の専門家がいないため、これ以上の経済効果の推定を行うことはできないが、大会による経済効果は決して小さくないと考えられる。

表9. 大会の経済効果 (参加者区分別にみた平均費用)

	航空・宿泊代	飲食費	お土産・ショッピング代	娯楽費	入場費	費用その他	総額費用
海外参加者	¥256,148 (N=248)	¥45,186 (N=186)	¥69,703 (N=194)	¥28,575 (N=103)	¥7,276 (N=59)	¥50,882 (N=51)	¥357,632
県外参加者	¥60,773 (N=22)	¥11,350 (N=20)	¥15,385 (N=13)	¥3,500 (N=4)	¥4,630 (N=10)	¥20,000 (N=3)	¥99,671
県内参加者	¥10,656 (N=114)	¥2,834 (N=316)	¥6,184 (N=106)	¥1,595 (N=79)	¥205 (N=73)	¥1,732 (N=115)	¥6,403
全体	¥172,074 (N=384)	¥18,251 (N=522)	¥45,936 (N=313)	¥16,577 (N=186)	¥3,455 (N=142)	¥16,889 (N=169)	¥150,047

③ 大会目標・目的に関する分析

これまで世界のウチナンチュ大会では、その基本コンセプト（大会目標や目的）として、世界に雄飛する沖縄系の人々の人的ネットワーク（ウチナンチュネットワーク）を構築することや、次世代への沖縄アイデンティティの継承が掲げられてきた。また今回の第6回大会では、「万国津梁の精神を次世代へ継承し、海外への雄飛を促進する」など、県内にいる県民に向けた目標も掲げられた。本節では、これら大会目標・目的に関する分析を

行い、本大会が「ウチナンチュ」の人々、社会、コミュニティに果たす役割や効果について検証する。

1) ウチナンチュアイデンティティの分析

「あなたご自身を「ウチナンチュ」だと思いますか」と尋ねたところ、79%の人々が自身のことをウチナンチュだと思っている（「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計）ことが示された。また点数を1点（全くそう思わない）～4点（非常にそう思う）で計算したところ、平均点は3.43（標準偏差⁽³⁾=0.90）であり、

(3) 得点のばらつきを示す指標である。値が大きいほど、回答者の点数のばらつきが大きいことを示す。

大会参加者のウチナンチュアイデンティティが極めて高いことが示された。

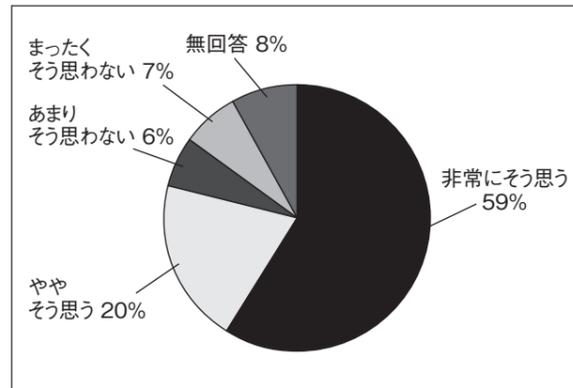


図13. ウチナンチュアイデンティティ (全体)

次に参加者区分別にウチナンチュアイデンティティを見ると、県外参加者でやや低い傾向

にあった。ただし県外参加者のうち、もともと沖縄出身の人は11名しかおらず、それ以外の一時的に県外から来た回答者にとっては、回答できないか、「そう思わない」としか答えられない項目であったと考えられる。そこで、ここでは県外参加者の回答は除外して、海外参加者と県内参加者で比較を行う。分析の結果、「そう思わない」の割合は海外参加者の方で多く、「非常に思う」の割合は県内参加者で多かった ($\chi^2(3) = 21.08, p < .01$)。また平均値でも海外参加者が3.34であったのに対し、県内参加者は3.49と統計的にも有意に高かった ($t(631.54) = -2.49, p < .01$)⁽⁴⁾。ただし、相対的に海外参加者の方が得点が低いといっても、4点満点中の3.34点であり、海外参加者も高いウチナンチュアイデンティティを保持していると考えられる。

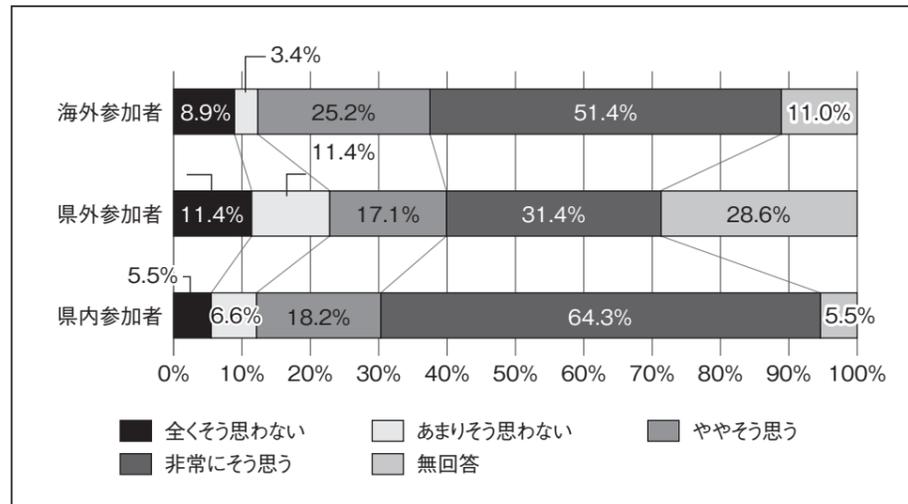


図14. 参加者区分別のウチナンチュアイデンティティ

そこで次に、海外参加者のウチナンチュアイデンティティ (図中、沖縄ID) が移民世代でどのように異なるか、またあわせて自身の居住地 (出生地) である現地へのアイデンティティ (図中、現地ID) との比較も通じ、海外参加者のアイデンティティの特徴について検討を行った。

その結果⁽⁵⁾、移民2世以降では、ウチナン

チュアイデンティティ⁽⁶⁾と現地へのアイデンティティに差が見られなかったが、1世では、現地へのアイデンティティよりもウチナンチュアイデンティティの方が有意に高かった。この結果より、沖縄で生まれ、自身が海外へ移住した1世の人々では、相対的にウチナンチュアイデンティティの方が高いのに対し、移民先の国々に生まれた2世以降では、現地へのアイデ

ンティティとウチナンチュアイデンティティが同程度に高かった。このことよりウチナンチュアイデンティティは世代を超えて継承され

ているとともに、2世以降では、現地とウチナンチュ、2つのアイデンティティが共存していると考えられる。

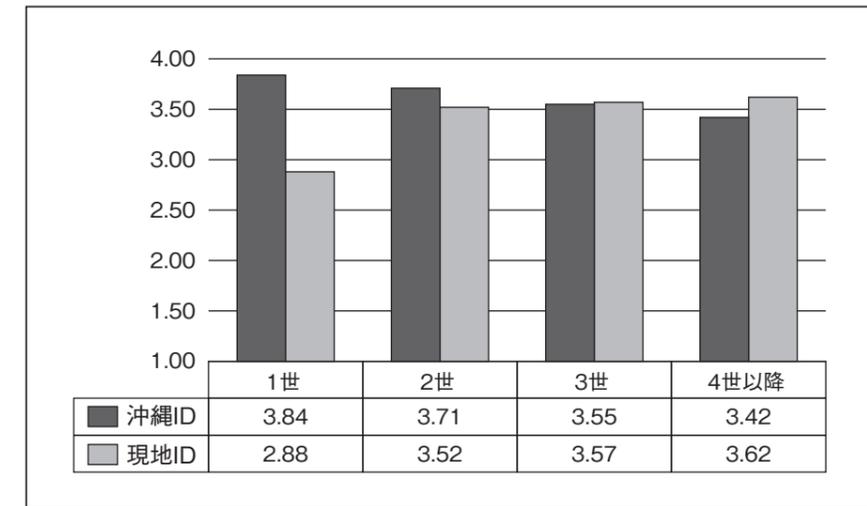


図15. 海外参加者におけるウチナンチュIDと現地IDの比較

2) ウチナンチュネットワークの分析—大会を通じて生まれた新たなネットワークについて

今大会を通じて、新たなウチナンチュ同士のネットワークが生まれたか、その人数を尋ねた。回答の集計に当たっては、全体の度数の分布の割合から、全くネットワークが生まれなかった「0人」、「1～10人」、「11～30人」、「31～50人」、「50人以上」の5段階に分類しなおした。なお全般的に無回答の割合が多く、これらを含めた%で集計すると大幅に回答が歪んでしまう。そこでここでは、無回答を除いた有効データ (何らかの数値 (人数) が回答されたもの) によって分析を行った。

参加者区分によって尋ねている項目 (ウチナンチュネットワークの種類) が異なるため一括的に評価できないものの、全体的な傾向として、県内参加者 (および県外参加者: ただし人数そのものが少ないため分析が困難) では、「0人」の割合が多かった。また構築されたとしても、「1～10人」と少人数がほとんどであった。

これらの結果から、県内参加者では、大会を通じてほとんど新たなウチナンチュネットワークが構築されていないことが示された。一方、海外参加者においては、「0人」という人も30%前後いるが、逆の言い方をすれば、70%近くは新たなウチナンチュネットワークを築いていた。また新たなウチナンチュネットワークの創出は全般的に生じており、海外参加者においては、それぞれの国・地域と沖縄をつなぐ「母県とのネットワーク」、国同士をつなぐ「越境的なネットワーク」、そして国内や地域内をつなぐ「ローカルなネットワーク」が構築されたと考えられる。

以上より、大会目標・目的であるウチナンチュネットワークの構築ということを考えると、特に県内の人々がネットワークを作る機会としては十分とは言えず、これは不満点で県内参加者において「海外のウチナンチュとの交流が少ない」という意見も多かったように、改善の余地が大きいと考えられる。

(4) 2群間の平均値の差を検定するための統計手法であるt検定を使用した。

(5) 統計的に3群間以上の平均値の比較を行う分散分析という統計手法を用いた。専門的な書き方になるが、分析の結果、沖縄IDと現地IDの間に相違が認められ ($F(1, 186) = 11.13, p < .001$)、またID×移民世代の交互作用が有意であった ($F(3, 186) = 10.79, p < .001$)。上の表記は主に交互作用に対する下位検定の結果である。

(6) 図15中のウチナンチュアイデンティティの得点を平均すると3.63点となる。この値は、先述の海外参加者のウチナンチュアイデンティティの得点 (3.34) と異なる。点数が異なった理由として、分析上、ウチナンチュアイデンティティと現地アイデンティティのいずれにも回答した人のみがデータとして有効であり、ウチナンチュアイデンティティしか答えていない人は分析から除外されてしまう。つまり、回答者数が変化 (減少) したため、平均の値が異なるようになってしまった。

表 10. 大会を通じて生まれた新たなウチナーンチュネットワーク

参加者区分	新たに生まれたウチナーンチュネットワーク	0人	1～10人	11～30人	31～50人	50人以上	無回答
海外参加者	住んでいる地域(州・県)の人	40 18.3%	83 38.1%	56 25.7%	17 7.8%	22 10.1%	163 42.8%
	住んでいる国(他州・他県)の人	57 29.8%	76 39.8%	30 15.7%	13 6.8%	15 7.9%	190 49.9%
	沖縄県内の人	62 30.2%	90 43.9%	36 17.6%	5 2.4%	12 5.9%	176 46.2%
	日本国内の人	104 55.6%	66 35.3%	10 5.3%	1 0.5%	6 3.2%	194 50.9%
	他国の人	72 36.5%	83 42.1%	27 13.7%	7 3.6%	8 4.1%	184 48.3%
県外参加者	住んでいる地域(都道府県)の人	11 84.6%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 62.9%
	沖縄県内の人	10 66.7%	5 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 57.1%
	日本国内の人	12 80.0%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 57.1%
	海外の人	10 71.4%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	21 60.0%
県内参加者	沖縄県内の人	290 75.3%	69 17.9%	14 3.6%	2 0.5%	10 2.6%	292 43.1%
	日本国内の人	314 83.3%	51 13.5%	8 2.1%	1 0.3%	3 0.8%	300 44.3%
	海外の人	314 79.1%	68 17.1%	9 2.3%	3 0.8%	3 0.8%	280 41.4%

3) 県内参加者の海外志向性の変化

県内参加者が大会への参加を通じて、海外への興味や関心がどの程度向上したかを尋ねた。点数を「(1)してみたくならなかった」～「(4)してみたくなった」で計算したところ、県内参加者の平均値はそれぞれ図16のようになった。特に「海外の国の文化・生活をもっと詳しく知

る」や「外国語の勉強」は得点が3.2点以上と高く、海外に関する知識面での関心の向上が見られた。また「海外で就職」はやや得点が低いものの、「国際交流・貢献活動に参加」や「海外で生活」、「海外に留学」なども中点(2.5)を超えており、行動面(海外に行く)でも志向性の変化が見られた。

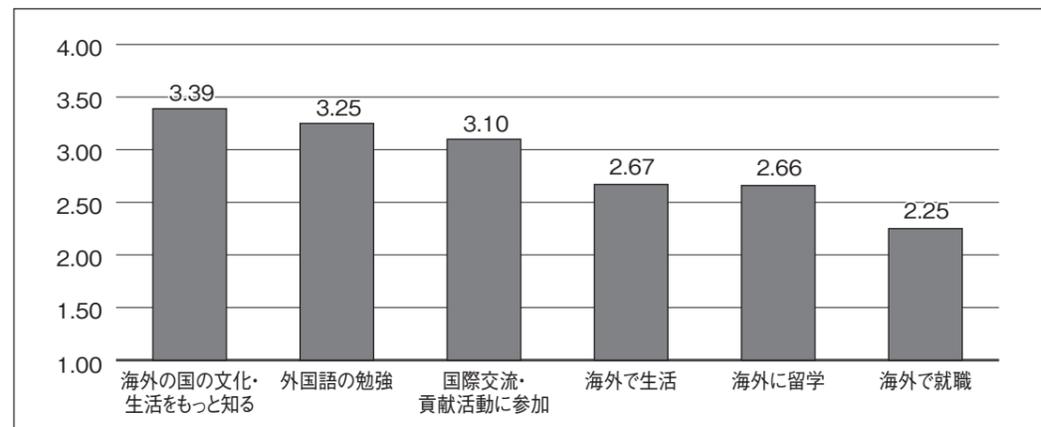


図16. 県内参加者の海外志向性の変化

4. まとめ

- 多様な年代、多様な国からの参加があった。海外参加者については、比較的年齢が高いが、移民世代の変容の傾向も見られる。
- 今回が初めて大会に参加した人が多い。
- 参加目的は、参加者区分で異なっており、海外参加者は「沖縄」に触れること、県内参加者は「世界」に触れることが主な目的となっている。
- 大会満足度は高い。中でも特に海外参加者の満足度が極めて高い。
- 大会への不満・改善点として、海外のウチナーンチュとの交流が少ないこと、また広報不足があげられた。
- 大会参加者のウチナーンチュアイデンティティは高い。
- 海外参加者のうち、1世の人々では、相対的にウ

チナーンチュアイデンティティの方が高いのに対し、2世以降では、現地へのアイデンティティとウチナーンチュアイデンティティが同程度に高い。ウチナーンチュアイデンティティは世代を超えて継承されているとともに、2世以降では、現地とウチナーンチュ、2つのアイデンティティが共存していると考えられる。

- 大会を通じて新たに生まれたネットワークは、比較的海外参加者で多いものの、県内参加者ではほとんどネットワークの拡大は見られない。「ウチナーンチュネットワークの構築」に関する大会目標・目的については、十分に達成されているとは言えず、上述の不満点(海外のウチナーンチュとの交流が少ないこと)を含め、交流を促進させるようなプログラムの改善が必要である。
- 県内参加者の海外志向性において、ポジティブな変化が報告された。

日目



第6回世界のウチナーンチュ大会 参加者アンケート

(※各問に付している【海外】・【県外】・【県内】は、調査票別で設定した項目の相違を示すものである。)

Q1. あなたはこの大会に、どちらから参加されましたか？いずれか1つお選びください。【海外・県外・県内】

- 1. 海外・外国から参加
- 2. 県外（日本の他都道府県）から参加
- 3. 沖縄県内から参加
- 4. 沖縄に観光に来ていて、たまたま大会に来た

Q2. あなたは沖縄系の方ですか？【海外・県外】

- 1. 私自身が沖縄系である………移民（ ）世／出身（ルーツ）の地域（ ）
- 2. 沖縄系の家族がいる
- 3. その他……（ ）

Q3. あなたがお生まれになったのはどの国・地域ですか。該当する番号をお選びください。【海外・県外・県内】

- 1. 沖縄県
- 2. 沖縄県以外の日本国内……（ ）都・道・府・県
- 3. 日本以外の国………（ ）国
- 4. わからない／答えたくない

Q4. 普段、あなたが暮らしている【国・地域（海外）】・【都道府県（県外）】・【市町村（県内）】はどこですか。

国名（ ） 州・県名（ ）
 （ ）都・道・府・県
 （ ）市・町・村

Q5. あなたは地域にある県人会に所属していますか。【海外・県外】

- 1. していない
 - 2. している(県人会・市町村会名:)
- ↓ 以下の問いへ
- 県人会の活動にはどの程度参加していますか
- 1. めったに参加していない
 - 2. ある程度参加している
 - 3. ほぼ毎回参加している

Q6. あなたはこれまでに何回ぐらい沖縄に来たことがありますか。【海外・県外】

今回も含め、世界のウチナーンチュ大会には何回来られましたか？【海外・県外・県内】

沖縄に来た回数：() 回 ⇒ そのうちウチナーンチュ大会に参加した回数：() 回

以下の質問では、大会のことについてうかがいます。

Q7. あなたはどのような目的で「第6回世界のウチナーンチュ大会」に参加されましたか。あてはまるものを選んでください。複数ある場合は、大事なものを順番に3つまでお選びください。【海外・県外・県内】

1 番目 () 2 番目 () 3 番目 ()

下から選ぶ

1	自分のルーツを確認するため	2	世界のウチナーンチュと交流するため
3	沖縄県民と交流するため	4	いろんな世代のウチナーンチュと交流するため
5	沖縄の文化や伝統を学ぶため	6	世界の様々な文化と触れ合うため
7	冲案系移民、世界の県系人について知るため	8	親戚に会うため
9	友人・知人に会うため	10	県人会のメンバーとの交流を深めるため
11	周り（家族・親戚・友人・県人会など）から誘われて	11	誰かの付き添いで
13	イベントに参加（出演・鑑賞を含む）するため	13	仕事や勉強のため
15	その他	15	特に目的はない（通りすがりなど）

Q8. 今回のウチナーンチュ大会に参加してみて、海外への興味・関心・志向はどう変化しましたか。以下の質問に対し、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。【県内】

		してみたく ならなかった	あまり してみたく ならなかった	やや してみたく なった	してみたく なった
①	海外の国の文化・生活をもっと知る	1	2	3	4
②	外国語の勉強	1	2	3	4
③	海外に留学	1	2	3	4
④	国際交流・貢献活動に参加	1	2	3	4
⑤	海外で就職	1	2	3	4
⑥	海外で生活	1	2	3	4

Q9. 一般的にみて、あなたは今回の「第6回世界のウチナーンチュ大会」にどれほど満足していますか。あてはまる番号に○をつけてください。【海外・県外・県内】

- 1. 非常に不満
- 2. やや不満
- 3. やや満足
- 4. 非常に満足

Q10. 今回の大会において、不満に思っている点・改善点があれば教えてください。いくつでも○をつけてください。【海外・県外・県内】

- 1. 多言語対応ができていない
- 2. 大会の宣伝が不足
- 3. 大会事務局からの情報提供が不足
- 4. 施設・設備面が不十分
- 5. 高齢者・障害者・子どもへの配慮が不足
- 6. 移動がしにくい
- 7. イベントの内容や運営への不満
- 8. 県民との交流が少ない
- 9. 海外のウチナーンチュとの交流が少ない
- 10. その他()

Q11. 次回の「第7回世界のウチナーンチュ大会」にも参加したいと思いませんか。【海外・県外・県内】

- 1. 参加したくない・できない
- 2. 参加したい

↓ 以下の問いへ

「参加したくない・参加できない」理由は何ですか？ 該当するものをいくつでも選んでください。

- 1. 経済的な理由
- 2. 健康上・年齢上の理由
- 3. 大会に魅力がない
- 4. 沖縄にいる親戚や友人との関係が疎遠になった
- 5. その他()

Q12. 今回の大会に参加するのに、どのくらい費用がかかりましたか。差し支えない程度でおよその金額(円)をお答えください（1ドル＝100円で計算してください）。【海外・県外・県内】

航空券代 + 宿泊代	飲食費	お土産 ショッピング代	娯楽費	入場費	その他
¥()	¥()	¥()	¥()	¥()	¥()

以下の質問では、沖縄やウチナーンチュに対するあなたのお考えについてうかがいます。

Q13. あなたのアイデンティティについてうかがいます。当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。【海外・県外・県内】

		全く そう思わない	あまり そう思わない	やや そう思う	非常に そう思う
例	沖縄は良いところだ	1	2	③	4
①	あなたはご自身を「ウチナーンチュ」だと思いませんか【海外・県外・県内】	1	2	3	4
②a	あなたはご自身を「お住まいの国・地域の人（例：ブラジル人、アメリカ人など）」だと思いませんか【海外】	1	2	3	4
②b	あなたはご自身を「日本人」だと思いませんか【県外】	1	2	3	4

Q14. あなたは日常の生活の中に、以下のような沖縄的な文化や伝統をどの程度取り入れていますか。

【海外・県外・県内】

		おこなっていない	たまにおこなっている	ときどきおこなっている	よくおこなっている
①	会話に琉球方言(ウチナーグチ・しまくとぅば)が混じる	1	2	3	4
②	ウチナーグチ・しまくとぅばを聞いて理解する	1	2	3	4
③	沖縄の伝統的な行事や祭り(エイサーやハーリーなど)に参加する	1	2	3	4
④	シーミー(清明祭)に行く	1	2	3	4
⑤	沖縄の芸能(空手、琉舞、民謡、三線など)を実践している	1	2	3	4
⑥	沖縄料理を食べる	1	2	3	4
⑦	かりゆし(沖縄文化や自然などモチーフにしたデザインのあるシャツ)を着る	1	2	3	4
⑧	家にシーサー(小さなライオンの像)や石敢當を置いている	1	2	3	4
⑨	ヒメカン(台所にいる家の神)に手を合わせる	1	2	3	4
⑩	ユタに相談する	1	2	3	4
⑪	模合(頼母子講:互恵的金融組織)に参加する	1	2	3	4
⑫	旧盆(旧暦のお盆)の集まりに行く	1	2	3	4

Q15. あなたは、「ウチナーンチュ」であるためには、以下の事柄がどれだけ必要だと思いますか。それぞれの意見に対し、「1. 全く必要でない」～「4. 非常に必要である」の中から、1つだけ○をつけてください。【海外・県外・県内】

		全く必要でない	あまり必要でない	やや必要である	非常に必要である
①	沖縄で生まれたこと	1	2	3	4
②	沖縄で幼少期を過ごしたこと	1	2	3	4
③	沖縄に住んでいること	1	2	3	4
④	親のどちらかが沖縄出身者であること	1	2	3	4
⑤	祖先が沖縄出身(本島・離島含む)であること	1	2	3	4
⑥	沖縄の文化・歴史のことを詳しく知っていること	1	2	3	4
⑦	方言(ウチナーグチ)を少しでも話せること	1	2	3	4
⑧	沖縄が好きなおこと	1	2	3	4
⑨	自分を「ウチナーンチュだ」と思っていること	1	2	3	4
⑩	沖縄に貢献しようという気持ちを持っていること	1	2	3	4

Q16. 沖縄やウチナーンチュに対する態度についてうかがいます。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。【海外・県外・県内】

		全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらとも言えない	ややあてはまる	非常にあてはまる
①	ウチナーンチュであることに喜びを感じる	1	2	3	4	5
②	私は沖縄に誇りや愛着のようなものを感じる	1	2	3	4	5
③	自分のことを「ウチナーンチュだ」とは思わない	1	2	3	4	5
④a	私は、沖縄県民と交流したい【海外・県外】	1	2	3	4	5
④b	私は、県外の沖縄系の人と交流したい【県内】	1	2	3	4	5
⑤a	私は、他国のウチナーンチュと交流したい【海外】	1	2	3	4	5
⑤b	私は、海外のウチナーンチュと交流したい【県外・県内】	1	2	3	4	5

Q17. あなたが、定期的に交流を行っているウチナーンチュの人は、どこに何人ぐらいいらっしゃいますか？また、今回の大会を通じて、新たに交流が生まれた人は何人ぐらいいますか？人数をお書きください。

【海外】

		定期的に交流を行っているウチナーンチュ	新たに交流が生まれたウチナーンチュ
①	お住まいの地域(州・県)の人	()人	()人
②	お住まいの国(他州・他県)の人	()人	()人
③	沖縄県内の人	()人	()人
④	日本国内の人(沖縄を除く)	()人	()人
⑤	他国の人	()人	()人

※いない場合は「0」を記入してください。

【県外】

		定期的に交流を行っているウチナーンチュ	新たに交流が生まれたウチナーンチュ
①	お住まいの地域(都道府県)の人	()人	()人
②	日本国内(①を除く)の人	()人	()人
③	沖縄県内の人	()人	()人
④	海外の人	()人	()人

※いない場合は「0」を記入してください。

【県内】



		定期的に交流を行っているウチナーンチュ	新たに交流が生まれたウチナーンチュ
①	沖縄県内の人	()人	()人
②	日本国内の人(沖縄を除く)	()人	()人
③	海外の人	()人	()人

※いない場合は「0」を記入してください。

Q18. あなたは、沖縄に関する情報をどの程度得ていますか。一か月あたりのおおよその回数をお答えください。【海外・県外】

一か月あたり()回ぐらい ←聞いたり、調べたりする回数をお答えください。ない場合は0を記入ください。

↓以下の問いへ

主な情報源は何ですか。該当するものにいくつでも○をつけてください。

1. マスメディア(新聞・雑誌・テレビなど)	2. インターネット(ニュースサイト、動画サイトなど)
3. ソーシャルメディア(Facebook、Twitterなど)	4. 行政機関(大使館・領事館・県庁など)
5. 自国・自地域の県人会(ニューズレター・口コミなど)	6. 他国・他地域の県人会(ニューズレター・口コミなど)
7. 所属コミュニティ(会社・学校・宗教団体など)	8. 沖縄にいる親戚・友人・知人
9. 沖縄にある組織・団体(企業、NPO、芸能団体など)	10. 日本語学校
11. その他()	

Q19. あなたのしまくとぅば(琉球方言)・日本語の力についてうかがいます。該当する番号に○をつけてください。【海外・県外・県内】

	まったくできないもしくはあいさつ程度	日常の会話は聞き取れるが、話すことはできない	日常の会話を話したり聞いたりできる	不自由なく議論できる
ウチナーグチ・しまくとぅば(琉球方言)	1	2	3	4
日本語【海外】	1	2	3	4

Q20. 次の質問は、国や地域による価値観の違いを調べるためのものです。それぞれの意見について、あなたの考えに近いものに○をつけてください。【海外・県外・県内】

		強く反対	どちらかといえば反対	どちらとも言えない	どちらかといえば賛成	強く賛成
①	平凡で安定した人生よりも、不安定だが可能性に満ちた人生の方が好ましい	1	2	3	4	5
②	どのような状況においても、父親の権威は尊重されるべきだ	1	2	3	4	5
③	人を雇うとしたら、初対面の候補者の方が適任そうに見えても、親族や友人の候補者がいれば、そちらを採用するほうがよい	1	2	3	4	5
④	よい関係を保つためには、不満があっても口に出さない方がよい	1	2	3	4	5
⑤	自分の意見と違って、多数派の人々の意見には従う方が無難である	1	2	3	4	5
⑥	同郷の人が社会で活躍すると、自分も誇らしい気持ちになる	1	2	3	4	5
⑦	上司と意見が合わなくても、部下は上司の指示に従うべきだ	1	2	3	4	5
⑧	妻は、自分のキャリアを追い求めるよりも、夫のキャリアの手助けをする方が重要だ	1	2	3	4	5
⑨	有能なリーダーには、すべての決定をゆだねた方がよい	1	2	3	4	5
⑩	余分なお金があれば、私は危険性が高くても見返りの多いものに投資をするだろう	1	2	3	4	5

以下の質問では、あなたご自身のことについてうかがいます。

Q21. あなたの年齢・性別・国籍をお答えください。【海外・県外・県内】

年齢： _____ 歳

性別： 男 ・ 女

国籍： _____

Q22. あなたの職業をお答えください。【海外・県外・県内】

- | | | | |
|-----------------------|--------------|----------------------|----------|
| 1. 管理的職業 | 2. 専門的・技術的職業 | 3. 事務的職業 | 4. 労務的職業 |
| 5. サービス職業 | 6. 公務員 | 7. パート・アルバイト・内職・臨時雇用 | |
| 8. 農業・林業・漁業（家族従業者も含む） | 9. 自営業 | 10. 専業主婦（夫） | |
| 11. 無職（年金生活者含む） | 12. 学生 | 13. その他（ _____ ） | |

Q23. あなたの最終学歴をお答えください。【海外・県外・県内】

- | | | |
|-------------------|-----------------|-------------|
| 1. 中学（旧小学・旧高等小学）卒 | 2. 高校（旧中学）卒 | 3. 短大・専門学校卒 |
| 4. 大学卒（在学中含む） | 5. 大学院卒（在学中含む） | |
| 6. その他（ _____ ） | 7. わからない・答えたくない | |

Q24. あなたが現在お住まいの社会の経済的な豊かさを、以下の5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこの中のどれに入るとお考えですか。あてはまるところひとつに○をつけてください。【海外・県外・県内】

- | | | | | |
|------|--------|--------|--------|------|
| 1. 下 | 2. 中の下 | 3. 中の中 | 4. 中の上 | 5. 上 |
|------|--------|--------|--------|------|

Q25. あなたは全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。以下の中から選んでください。【海外・県外・県内】

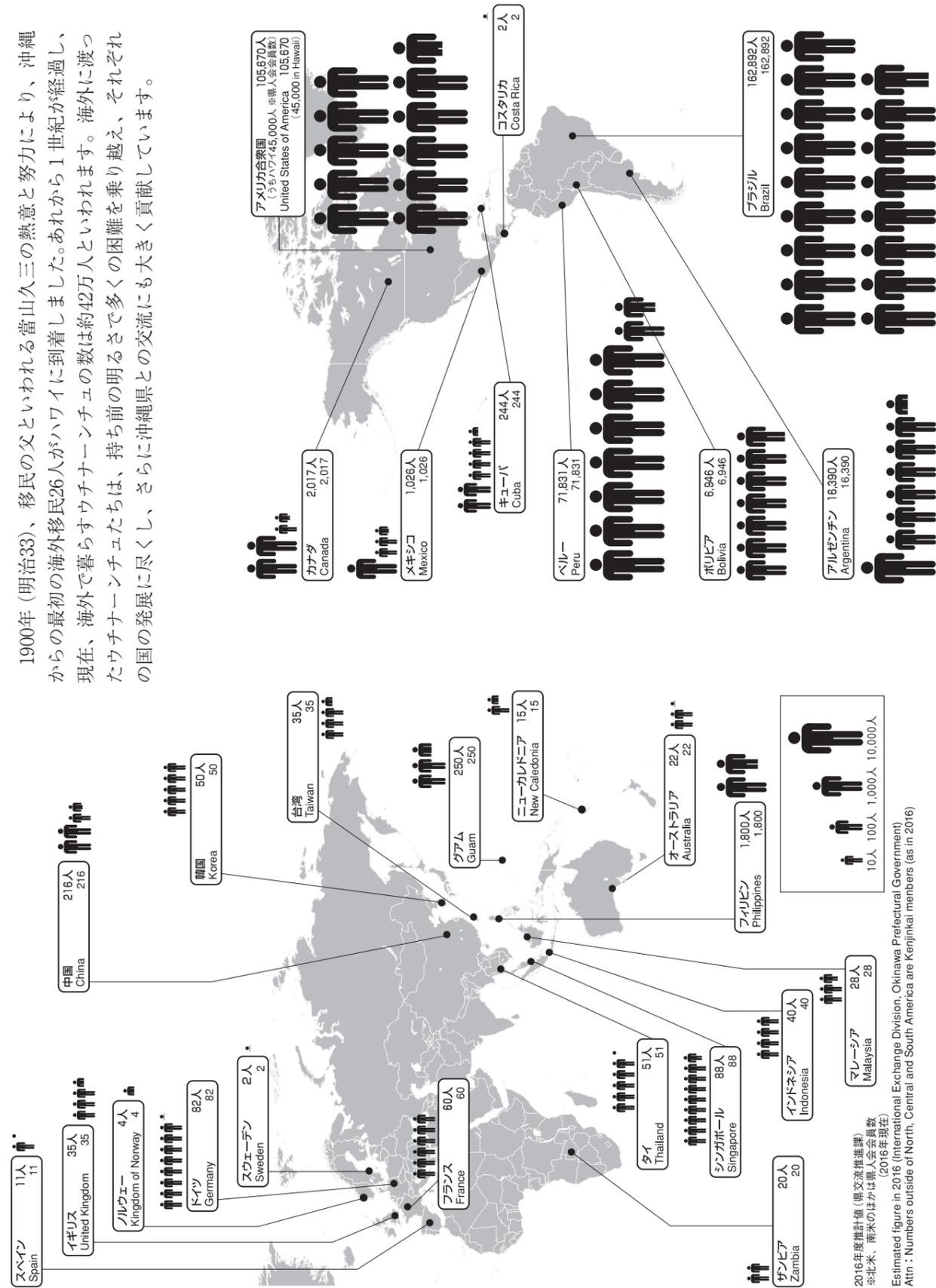
- | | | | | |
|-------|---------|--------------|---------|-------|
| 1. 不満 | 2. やや不満 | 3. どちらとも言えない | 4. やや満足 | 5. 満足 |
|-------|---------|--------------|---------|-------|



ご協力ありがとうございました。

1 世界のウチナンチュ分布図

1900年(明治33)、移民の父といわれる當山久三の熱意と努力により、沖縄からの最初の海外移民26人がハワイに到着しました。あれから1世紀が経過し、現在、海外で暮らすウチナンチュの数は約42万人といわれます。海外に渡ったウチナンチュたちは、持ち前の明るさで多くの困難を乗り越え、それぞれの国の発展に尽くし、さらに沖縄県との交流にも大きく貢献しています。



2016年度推計値(県交流推進課)
 ※北米、南米のほかは県人会会員数(2016年現在)
 Estimated figure in 2016 (International Exchange Division, Okinawa Prefectural Government)
 Attn: Numbers outside of North, Central and South America are Kenjinkai members (as in 2016)

2 第6回世界のウチナンチュ大会参加者数

第6回大会の参加者数は次のとおりとなっている。海外は世界27カ国、2地域から過去最高となる7,353名、国内参加者からは603名、合わせて7,956名が参加した。海外からの参加者数を国別で見ると、多い順にアメリカ合衆国、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、カナダ、ボリビア・・・となっている。

また、コロンビア、韓国、インド、ミャンマーから初めての参加があった。ハワイを中心に参加者が大幅に増えたアメリカ合衆国は初の4,000名超えを果たした。その他にもアルゼンチン、カナダ、ボリビア、フィリピンなど過去最高を記録する国が多かった。

参加者数の大州別内訳は、北米56%、中南米31%、アジア・ヨーロッパ・オセアニア・アフリカ等5%、国内8%となっている。

大州別	国(地域)名	参加者数		大州別	国(地域)名	参加者数			
		前回大会	第6回大会			前回大会	第6回大会		
北米 (2)	アメリカ合衆国	2,956	4,274	海外	フランス	23	35		
	うちハワイ	(1,065)	(1,861)		イギリス	22	32		
	カナダ	164	197		ドイツ	4	20		
	北米合計	3,120	4,471		スペイン		1		
	中南米 (7)	ブラジル	1,213		1,131	スウェーデン	1		
		ペルー	345		620	イタリア	1		
		アルゼンチン	276		525	ヨーロッパ合計	51	88	
		ボリビア	53		138	オセアニア (3)	ニューカレドニア	55	65
		メキシコ	36		23	オーストラリア	10	7	
		コロンビア			2	ニュージーランド	1	2	
		キューバ			1	オセアニア合計	66	74	
		グアテマラ	2			アフリカ (1)	ザンビア	3	3
ベネズエラ		1		その他	招待者(VIP)等	14	100		
中南米合計		1,926	2,440	海外合計	合計	5,317	7,353		
アジア (12)	フィリピン	58	76	国内	県人会等	750	603		
	中国	47	39		観光客	1,296			
	台湾	3	16		合計	2,046	603		
	タイ	14	15	海外 + 国内			7,363	7,956	
	シンガポール	5	14	※27カ国、2地域(メキシコは中南米に含めた。2地域は台湾とニューカレドニア)					
	マレーシア	3	4	※初参加国 コロンビア、韓国、インド、ミャンマー					
	インドネシア		4	※前回参加で今回不参加国グアテマラ、ベネズエラ、スウェーデン、イタリア					
	韓国		3						
	カンボジア	4	2						
	インド		2						
	ベトナム	3	1						
	ミャンマー		1						
アジア合計	137	177							

